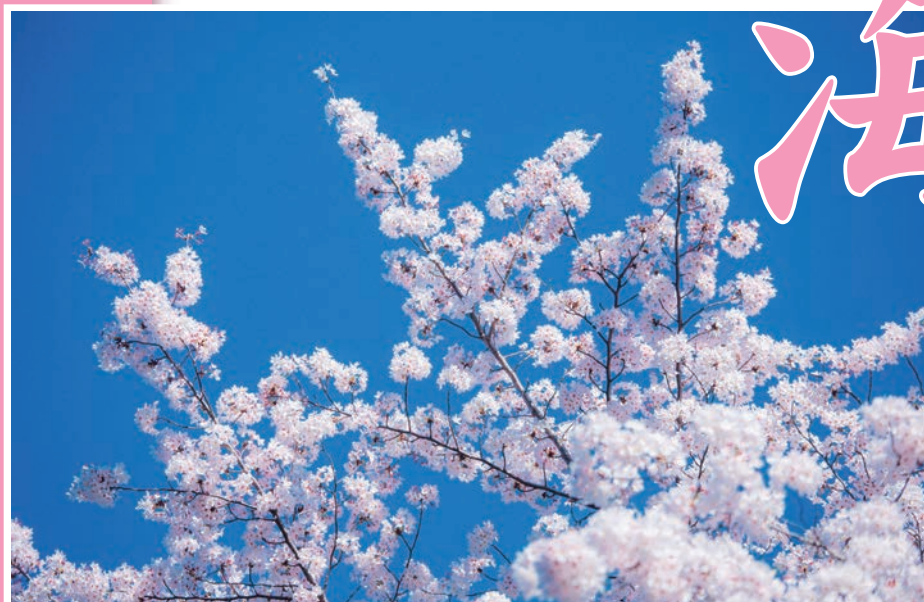


vol.33 mar. 2020



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2019年度 旅立ち	
卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在学生へ	7
卒業、修了する先輩留学生から在学生へ	12
退職の年を迎えて	14
新任教員の紹介	17
大学院紹介	19
グローバル人材育成プログラム	22
海外留学体験記	23
業界で活躍しているOB・OGの方々	24
海鷹祭の実施報告	26
課外活動報告	27
ニュース & トピックス	28
学生相談室からのお知らせ	33
お知らせ	35

◆2019年度 旅立ち

■卒業特集

◎卒業生・修了生のみなさんへ

これからを考える	竹内 俊郎…… 3
卒業生の皆さんへ	佐藤 秀一…… 4
卒業される皆さんへ	塚本 達郎…… 5
「いい仕事」をしよう	田中 祐志…… 5
大学院修了生の皆さんへ	井関 俊夫…… 6

◎卒業生・修了生から在学生へ

在学生の皆様へ	村田 将之…… 7
将来	細野 将汰…… 7
様々な出会いや機会に巡り会える場所	宮地 皇希…… 8
あこがれ	南 賢哉…… 8
夢は逃げない。自分が夢から逃げるだけ	田代康一郎…… 9
在校生に向けて	岸野 蒼大…… 9
オープンマインド	阿部 和真…… 10
充実した学生生活を	豊田健一郎…… 10
Try your best and make your dreams come true	NIU Liqiong(牛 丽琼)…… 11

◎卒業、修了する先輩留学生から在学生へ

過去の私に会えるなら	カイル イザティ ビン カマルンタム…… 12
前向き力を信じて前に進もう	朴 昭証…… 13

■退職の年を迎えて

海洋生物資源学部門	今田 千秋…… 14
食品生産科学部門	木村 凡…… 14
海洋政策文化学部門	川下新次郎…… 15
海事システム工学部門	藤坂 貴彦…… 15
海洋資源エネルギー学部門	稲本 守…… 15
海洋資源エネルギー学部門	酒井 久治…… 16

■新任教員の紹介

海洋環境科学部門	豊福 高志…… 17
海洋環境科学部門	村瀬 弘人…… 17
海洋資源エネルギー学部門	三島 由夏…… 18

■大学院紹介

海洋資源環境学専攻	鈴木 秀和…… 19
食機能保全科学専攻	後藤 直宏…… 20
応用生命科学専攻	萩原 知明…… 20

■グローバル人材育成プログラム

第13期海外探検隊ノルウェー隊に参加して	小澤 柚香…… 22
海外探検隊での体験	渡邊 美結…… 22

■海外留学体験記

海外インターンシップに参加して	山下 将平…… 23
海外インターンシップに参加して	吉田 奏…… 23

■業界で活躍しているOB・OGの方々

「拓海」の再訪	宮崎 佑介…… 24
大学生生活を振り返って感じる	こと 安島 由花…… 25

■海鷹祭の実施報告

海鷹祭を終えて	福田 衣純…… 26
---------	------------

■課外活動報告

ポート部	矢田 大河…… 27
釣り研究同好会	田上 大志…… 27

■ニュース&トピックス

- ・「父母等懇談会」を開催しました…… 28
- ・「海の日」記念行事を開催しました…… 29
- ・令和元年度9月期
学生表彰授与式を行いました…… 29
- ・令和元年度9月期
学位記・修了証書授与式を行いました…… 30
- ・令和元年度10月期
大学院入学式を行いました…… 30
- ・第59次海鷹丸遠洋航海に出港しました…… 31
- ・サークルリーダーシップ研修会を
開催しました…… 32

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について…… 33
- ・学生相談体制について…… 34

■お知らせ

- ・就職支援体制について…… 35
- ・図書館からのお知らせ…… 35
- ・国立科学博物館および
国立美術館の利用について…… 36
- ・緊急時連絡システムについて…… 37
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項…… 39
- ・学生関係窓口からのお知らせ…… 41
- ・悪質な就活商法に関する注意喚起…… 41
- ・東京海洋大学校友会について…… 42

2019年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生のみなさんへ

これからを考える

学 長
竹 内 俊 郎

卒業生、修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。皆さんは本学で海洋・海事・水産及びその関連分野について学んできたわけですが、学部生の皆さん、思う存分学ぶことができたでしょうか？専攻科の皆さん、長期航海で一まわりも二まわりも成長できたでしょうか？大学院の皆さん、オリジナルの研究を行って、世の中へ発表できたでしょうか？そしてすべての皆さん、よき友達が得られたでしょうか？私としては、皆さんが本学で学んで良かったと思っただけのことを願っています。

皆さんは、自分の力だけではここまでこれなかったのではないのでしょうか？これまでお世話になったご両親など保護者の方々や先生方に対して、何らかの形でお礼の気持ちを伝えて欲しいと思います。最近、皆さんは手紙など書かなくなっているとは思いますが、正式にはやはり、手紙によりお伝えするのが良いと思います。ぜひ、感謝の気持ちを自筆で自分の言葉で伝えてください。

昨年も多くの災害が発生し、特に9月には台風15号が千葉県房総半島を中心に、10月には台風19号が関東・甲信越から東北地方の広範囲に、さらには台風21号と低気圧の影響による記録的大雨により被災地に再度の甚大な被害をもたらしました。

このような中、皆さんやそのご家族には特に大きな



被害はなかったと聞いておりますが、ご親戚などが被害を受けられたのではないかと心配しております。被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

本学の場合、水圏科学フィールド教育研究センターである千葉県の館山ステーション、同湾内支所、富浦ステーション及び静岡県の清水ステーションが大きな被害を受けました。特に館山ステーションでは、実験施設の屋根が飛ばされたり、停電が3～4日続いた影響で、水の供給停止や温度制御ができず、実験魚（サバ・ニベ）が約800尾も死んでしまいました。さらに、小

型ボートの損傷などもあり、大きな痛手となりました。

文部科学省からは国立大学法人等施設及び設備災害復旧費として、3,700万円ほどいただけることになっていますが、被害総額は約6,900万円であることから、本学としても復旧に対処すべく、大学基金の中に「館山・富浦ステーション支援基金」を設け、皆様方にご寄附をお願いしております。ぜひ、よろしくお願い致します。

さて、皆さんの進路は、社会に出る人、これからさらに進学する人、様々でしょう。ここで、皆さんの門出に際し、一言お話しします。

昨年のノーベル化学賞受賞者に吉野 彰氏がいらっしゃいますが、彼はリチウムイオン電池を開発された方です。このリチウムイオン電池の特徴としては、繰り返し充電可能、かつ軽量で高出力であることから、近年では、電気自動車の充電にも採用され、化石燃料に頼らない社会の実現可能性を高めています。

一方、本学でも、2010年春に世界初の急速充電対応型電池推進船「らいちょうI」を建造しました。この電池推進船は、吉野氏らが開発したリチウムイオン電池を搭載し、推進モーターを動力とすることで、「低騒音・低振動」、「航行中の排気ガスや二酸化炭素を出さない」、「高出力かつ短時間の充電時間」などを特徴とした船舶です。この「らいちょうI」は、海洋工学部の先生方により開発されたものですが、実用化には多くの時間が費やされました。2014年に試験的な民間の観光船建造がありましたが、それから5年の月日が経過し、昨年になって福井県的美浜町から、観光船として利用できないかとのオファーがあり、産業的な動きが出てきたところです。この間、最初の建造から10年の歳月が流れました。

このように、新たな開発と製品化には多くの時間がかかります。皆さんの中にも製品化まで届かなくても、その一端について研究・開発された方もいらっしゃるのではないのでしょうか？今後、社会に出て、あるいは大学の研究室で行う研究では、先を見通して地道な努力が必要になります。ぜひこのことを忘れずに、今後のモノづくりに役立ててください。

また、吉野氏は、「研究者は新しいことをチャレンジするのに35歳前後が非常に重要な年代」だと話しています。まさに、これからが皆さんにとって重要な時期となります。

さて本学は、今後の海洋AI産業の発展に鑑み、昨年、

卓越大学院プログラムを起ち上げ、その中核として「海洋AI開発評価センター (MAIDEC)」を設置しました。そして、この4月から大学院生の受け入れを開始します。このプログラムは「海洋産業が求める自律航行船の開発」、「人工衛星やアルゴフロートデータに基づく海洋観測」、「水圏生物のゲノム情報解析」、「水産資源の評価と管理」、「次世代スマート水産業の創設」等、海事・水産を含む海洋の広範な分野を網羅的に教育・研究するもので、社会人も受け入れます。皆さんが今後これらのAIに関わる分野を担当される時には、ぜひ本学の大学院に社会人として入学していただき、さらなるスキルを身に付け、レベルアップを図っていただきたいと思います。いわゆる「リカレント教育」の具現化です。

これまで本学で学んできた知識だけでは十分とは言えません。これからは、書物や経験を踏まえて様々なことを体験したり、再度学んだりしながら絶えず疑問を持ち、解決方法を模索し、総合的な判断を行い、社会に役立つ“高度専門職業人”になっていただければ幸いです。今後のご活躍をお祈り致します。

卒業生の皆さんへ



海洋科学部長
佐藤 秀一

御卒業、修了、おめでとうございます。思いっきり海洋大生活を満喫できましたか。大半の方は出来たのではないかと、期待しています。また、東京海洋大学の校歌にあるように「好きなことを好きなだけ、学べるものは幸せ者だよ」と学ぶことができましたか。満足できず、もっと勉強したい人は進学の予定だと思います。これから社会に巣立つ人は授業で得た広い知識・価値観、そして実験・研究で習得した方法・経験を生かして、活躍して下さい。進学する人は、常に新しい知見の収集を続けるとともに、それを活かしたクリエイティブな研究を行い、その成果を世界へ発信して下さい。意見や成果を発信することが非常に重要になり、評価に繋がります。

海洋科学部はグローバル人材育成プログラムを始め、8年目となります。今年の卒業生は4年生になる為

のTOEIC要件をクリアした3年目の学生さんです。このプログラムで培った英語力を是非とも、社会あるいは大学院に進んでから生かして下さい。

また、海洋科学部の教育プログラムについて、昨年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）認定の継続審査を受審し、海洋科学部卒業生はJABEEの修了生となります。JABEEは、技術者教育の国際同等性を確保するため、技術者教育認定機関の世界的枠組みであるワシントン協定等の考え方に準拠した基準で審査されていますので、海洋科学部の教育プログラムは国境を越えて、その質の同等性が保証されています。世界で認められる資格を持っていることとなりますので、どんどん世界へ羽ばたき、思いっきり活動して下さい。またJABEEプログラム修了生は履修技術者となり登録により技術士補とすることができます。さらに技術士資格試験の第一次試験が免除されますので、奮って技術士資格試験に挑戦して下さい。10年後に皆さんの中からたくさんの技術士が誕生するのを楽しみにしています。

グローバル人材育成プログラムとJABEE認定プログラムの両方を修了していることを活かして、広い視野、価値観も持って令和最初の卒業生として東京海洋大学を巣立ち、世界に羽ばたいて下さい。

皆さんの活躍を期待しています。

卒業される皆さんへ



海洋工学部長
塚本 達郎

卒業生の皆さん、おめでとうございます。いよいよ大学生活も終わるわけですが、どのような気持ちで過ごされているでしょうか。これからの新しい生活に胸躍らせているでしょうか。それとも新しい環境に飛び込むことに不安を抱いているでしょうか。皆さんは越中島キャンパスで過ごした4年間で、海洋工学部のカリキュラムを履修して卒業するのですから、自信を持って新しい生活に飛び込んで行ってほしいと思います。また、卒業に当たり、学生生活を支えてくれたご家族をはじめとする皆さんの周りの方たちへの感謝の気持ちを忘れ

ないでいてほしいと思います。

大学院へ進学する皆さんは、これから学部では十分にできなかった研究活動を楽しんで下さい。皆さんの周りには情報があふれていますが、その中では自分で考えることが重要です。研究を通して専門知識や問題解決能力を伸ばしてほしいと思います。乗船実習科に進学する皆さんは、仕上げの半年間、貴重な機会を自身の実力向上に十分に生かして下さい。就職して全く新しい環境に身を置くことになる皆さんは、不安が大きいかもしれませんが、周りに流されず常に自分が今やるべきことは何かをよく考えて行動して下さい。何事にも真摯に向き合って懸命に取り組めば、道は開け、皆さんにとって居心地の良い環境を作っていくことができるはずですよ。何か困ったときには、早めに周りの人に相談し、意見を聞くことをお勧めします。直ちに解決には結びつかずとも、新たな視点に気がつくなど糸口を見つけることができると思います。最後に健康には十分に注意をして下さい。多少の無理は必要かもしれませんが、無理をしすぎて健康を損ねてしまつては、元も子もありません。十分に体調を整えて、新生活をスタートして下さい。新しい環境での皆さんのご活躍を祈っています。

「いい仕事」をしよう



海洋資源環境学部長
田中 祐志

人生は旅である。卒業式は旅の終着点ではなく通過点だ。船出を心から祝福する。社会に出る人、進学する人、自分探しの旅に出る人、それぞれさあやるぞ!と張り切っているだろう。しかし、楽しくないことを強いられ、心も体もくたくたになり、こんな筈ではなかった、もっと自分らしい日々を楽しむ筈だった、などと苦しむこともあるだろう。そんな日々を、ツいてない、不運だ、などと嘆きながら陰気に過ごしていても何も生産できない。志気を失い調子が下がる。悪循環だ。だから真つ暗な中でも仕事や課題あるいは探しものがあることに感謝して「いい仕事」をしよう。光は上から射してくる。規模の大小や種類の如何

を問わず、跳ね返されても何度も挑めば、始めはできなかったことができるようになったり、手の着けどころがないと思えた問題や障害を遂には克服できたりする。いい気分になる。調子も良くなる。もっとやりたくなる。スマートフォンのゲームに没入している暇などないと感じるようになる。

「いい」仕事とは「個人が力を付けていき、その力を発揮し、属するチームを良くし、家庭や社会を良くし、国を良くし、世界を良くする、子孫に恥じないような」営みだと思う。「個人が出世し名声を高め蓄財していけるような」仕事は、他人を騙したり陥れたりしない限りは悪いとは思わない。しかし、個人は死んだら灰になる。一方、社会や子孫は続いていく。銭儲けだけが仕事ではない。家庭を守るのも家庭を持たず何かに没頭するのもそれぞれ結構だ。其々の持ち場で誠実であれ。ただし誰かに盲従してはいけない。筋の通らない人や物事に直面したなら、和を保ちつつも抗うべきときもある。

「海の大学」の学部、大学院や専攻科で教養に裏打ちされた専門知識と経験と技術と人脈を得た諸君は、周囲からは専門家として期待され相当の働きを求められる。楽しいではないか。さあ、求められた務めを懸命かつ陽気に果たそう。もし専門外の役が与えられたら、それは新境地を開く幸いな機会だ。嬉々として演じていこう。

諸君の世代は八十か九十まで働くのも普通になるのだろう。いい仕事をして長い人生を楽しんでくれ。



大学院修了生の皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長
井 関 俊 夫

大学院修了生の皆さん、課程修了と学位取得おめでとうございます。本学での学修成果を生かして、国際的に活躍されることを期待しています。言葉によるコミュニケーション能力はもちろんですが、国境のない海を研究対象としてきた皆さんは、海洋科学技術というもう一つの国際的なコミュニケーション・ツールを身に付けています。どうか臆することなく、七つの海をまたにかけて暴れまわって下さい。

ところで、ちょっと前から人工知能AIが話題となっていて、Singularityとか、「無くなる仕事」「残る仕事」などと言って、マスコミが若い人たちの不安を煽っているように思います。私のように定年間近の人間にはほとんど影響ないのですが、これから社会に飛び出す人たちにとっては、自分の職業選択は正解だったのだろうか、せっかくの喜びも目減りしてしまい、全く可哀そうに感じます。実は、私はSF映画が大好きで、コンピュータが人間を支配するとか、人間に危害を及ぼすといった状況は、言わば「怖いもの見たさ」のような感じで、嫌いではありません。子供の頃に見た難解な映画「2001年宇宙の旅」や、コンピュータが人間を支配する過程を描いた映画「地球爆破作戦」などは、当時は現実味が無かったせいか、恐怖心よりはむしろ感銘を受けました。また、アイザック・アシモフの「私はロボット」をはじめとする一連の小説は、ロボットの謎の行動を解明していく過程が描かれていて、純粋に推理小説としての爽快感を味わえたものです。そのような観点に立てば、「AIのブラック・ボックス問題に立ち向かう」などと言えば、ちょっと心躍る響きさえ感じます。

昨年の8月、東京海洋大学は文部科学省の「卓越大学院プログラム」に採択されました。このプログラムは2018年度から始まったもので、初年度は13大学15プログラム、2019年度は9大学11プログラムが採択されました。東京海洋大学は2度目のチャレンジで見事狭き門を突破して、「海洋産業AIプロフェッショナル卓越大学院プログラム」を始動させました。実学を重視してきた東京海洋大学は、AI時代が到来しても存在意義を失うことなく、さらに輝を増すと思っています。このプログラムでは、博士後期課程に5名の社会人編入学生枠を設けています。新時代を切り開きたい人は、いつでも東京海洋大学に戻ってきて下さい。



2019年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生から在學生へ

在學生の皆様へ

海洋科学部 海洋環境学科4年

村田 将之

在學生の皆様、こんにちは。誠に僭越ながら、この場をお借りして在學生の皆様へメッセージを送ります。卒業後に水産系の公務員として働くこともあり、公務員志望の方に向けてのアドバイスもありますので、目を通していただけますと幸いです。

まずは、1年生の皆様。大学生活には慣れてきたでしょうか。進級すると、いよいよ専門性の高い、海洋大らしい講義・実習が増えてまいります。楽しみにしてください。

次に、2年生の皆様。3年生になると、時間にかなり余裕ができてくると思います。余裕があるようでしたら、興味がある講義を聴講させてもらうことを強くおすすめいたします。特に公務員志望の方は国際法、経済学等の講義を聴講すると、公務員試験対策にもなります。1度受けた講義でも、単位の束縛の有無で授業に対する姿勢・視点が変わるものです。時間割に余裕があるということもあり、聴講の方が集中して講義を受けられました。

最後に3年生の皆様。研究室配属という大きな分岐点を過ぎたばかりですが、4年次には就職、あるいは院進というさらに重要な選択を迫られます。5,6月頃からは内定報告がSNSにあふれ始め、精神的に追い詰められる方も出てくることでしょう。人生を左右する選択ですから、慌てず、自分のペースで、極力妥協せず戦い抜きましょう。同じ目標を持った仲間がいるとかなり心強いです。私は公務員志望ということもあり、内定が決まったのは8月でした。同じ公務員志望の友人と定期的に食事の約束をし、日頃の悩みをぶつけ合うこと、

もとい、傷をなめ合うことが心の支えでした。

4年間の学生生活を通して、海洋大の特色ある講義・実習・部活でしか経験できない事がたくさんあったと感じています。特に一航はもう一度行きたい実習の1つです。お世辞にも安いとは言えない学費を払っている、あるいは奨学金を受けているわけですから、遊びほうけて学生生活終了では大損です。「大学は人生の夏休み」と言いますが、夏休みにも宿題はあります。終盤になって頭を抱えることが無いよう、お気を付けください。



左端が筆者

将来

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

細野 将汰

私は4年次以降の研究室選びに大変苦労をしました。自分のしたい研究が不明瞭であるにも関わらず、こだわりだけが強く、多くの研究室を訪問し先生方や先輩方に話を伺っては、何か合わないと感じていました。海洋大内の研究室選びに限界を感じた私は連携大学院や他大学

の先生にも連絡を取り、視野を広げて研究室を探しました。院進を決めていた私は、その時点で4年次の研究室を探すと共に大学院での研究室も探すことになりました。他大学の先生方は、縁もゆかりもない学生である私の研究室探しに驚くほどに親身で、研究室を決める上でのアドバイスや他の研究室の紹介をしてくださいました。その中で出会った、他大学の研究室で研究がしたいと感じ、大学院でその大学を受験することを決意しました。ここから逆算し、4年次の研究室は受験勉強をしながら1年で終わらせられる研究室を探し、今の研究室を選ぶことになりました。全てが決まってからは高校生以来の受験勉強期間が始まり、それを乗り越え無事志望の研究室への所属が決定しました。

3年前期までは将来のことをほとんど考えることもなく遊び呆けていましたが、就活にしろ院進にしろ、やはりいつかは自分の将来と向き合わなければならないときが来るんだと3年後期から4年にかけて実感しました。在學生には、それを忘れず、来たるべき時に上手くスタートが切れるようにあって欲しいと考えます。



様々な出会いや機会に巡り合える場所

海洋科学部 食品生産科学科4年
宮地 皇希

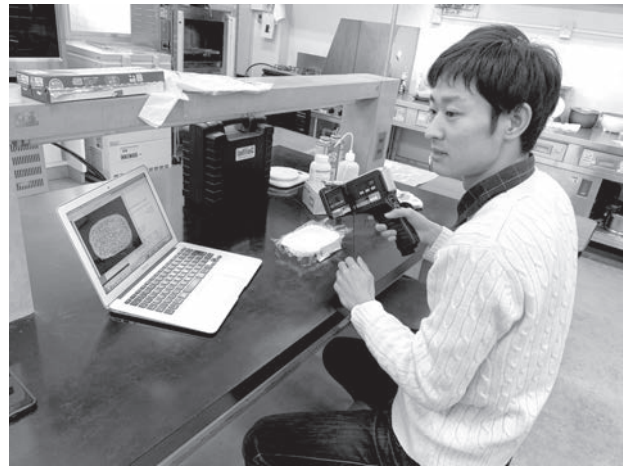
こんにちは。思えば大学生活4年間を振り返ってみると、たくさんの教授や友人に恵まれ本当に充実していた期間であったように思います。関西から上京し、誰も知り合いのいない東京という新天地でここまで様々な出会い・機会に巡り合えたのは、意欲的に活動してきたからだと自負しています。

特に印象に残っているのは、3年生の夏の「食品生産学実習」です。私は、マグロの缶詰製造の主任を任され

全3日間におよぶ工程の人員配置、時間の管理、製造ラインの設定などマルチに指揮する必要がありました。実際の作業は、キハダマグロの解体を自分の手で行ったりと新鮮な作業が多く楽しかった一方、やはり全員の作業進行度合いを把握し、次の指示を出すことは大変なところがあり、また機械の不調で思うように進行しないこともありました。終われば「疲れたな」で済んでしまいましたが、今思えば食品工場実習で人の上に立って管理し、またトラブルに対する責任を持つことは他の大学ではできないとても貴重な経験だったと思います。

この4年間で人との出会いや貴重な経験をできるだけ多く積んで「学ぶ」ことが大切だと実感しました。時間がない、を理由にするのではなく無理やり作ってでも積極的に活動できれば、より広い視野を持つことができるのではないのでしょうか。

来春から、私は京都大学大学院に進学し森林のバイオマスを学びます。食品とは一線を画す分野を学び、新しい出会いや機会に恵まれることを心待ちにするとともに、在學生の皆さんにも残りの大学生活に素敵な巡り合わせが訪れることを祈っております。



研究の様子

あこがれ

海洋科学部 海洋政策文化学科4年
南 賢哉

私にはあこがれがあります。それは私がこの東京海洋大学で4年間を過ごしてきて、こう生きていればもっと楽に生きられたのにな、と思うことです。拙い文章ながら伝えさせていただきます。

私は普通の大学生になりたかったのです。適当に授業を受けて友達と協力してギリギリ単位を取ったり、

学科の先輩から楽と評判の実習だけ参加して楽しんだり、普段はバイト漬けで休みの期間にサークル仲間や友達と遠征して遊んだり、コミュニケーション能力や遊んだ経験を活かして一般企業に就職したり、そんな目の前の課題を適度にこなしていく学生生活を送りたかったのです。

しかし、私はそんな学生生活を送ることはできませんでした。それでは幸せを感じる事ができなかったのです。私は他人と違うように生きることでは幸せを感じられないようです。他人から「変人」と思われたいというある種の承認欲求なのではないでしょうか。この欲求を満たしたいという煩惱のまま生きてきてしまいました。難しいと評判の単位をあえて履修したり、先生に授業後話を聞きに行き仲良くなったり、海外探検隊やオケアナスといった学内のプログラムにはできる限り参加したりしました。そう、まるで煩惱にまみれた俗世から逃れられない人のように。そして、悟りを開けないまま学生生活を終えてしまいました。

このようにあこがれからかけ離れた学生生活を送ってしまった私から皆さんに聞きたいことがあります。「あなたは悟りを開けますか。開こうと思いますか。」



夢は逃げない。自分が夢から逃げるだけ

海洋工学部 海事システム工学科4年

田代 康一郎

はじめに

こんにちは！海事システム工学科4年の田代康一郎です。突然ですが、サブタイトルにある言葉は私の座右の銘です。僭越ながら、「夢」と題し、後輩の皆様へメッセージを送らせていただきます。

自己紹介

改めまして、田代康一郎です。1997年に岐阜県多

治見市で生まれました。ご存知の通り、岐阜県には海がありません。しかし、小学生の頃家族でクルーズに参加し、船橋にて船長に帽子を被せてもらったことがきっかけで航海士に憧れを抱きました。その後、客船の航海士になるという「夢」を目指すため、本学に入学しました。

大学生活・メッセージ

大学生活では興味を持ったことに積極的に取り組むよう心がけました。例えば、英会話プログラムや、興味を持った他大学の講義に参加したことです。また、航海科として国家試験の勉強や、揚投錨実習の船長役に挑戦しました。大学生活で様々なことに取り組んだことは、私にとっての財産です。将来必ずしも役に立つとは限りませんが、物事を多面的に見る力が培われたと信じています。

その後、進路選択にあたって航海士を志望し、大学生活での経験が功を奏したのか分かりませんが、運良く自身の志望企業への入社が決まりました。幼い頃からの夢が叶う形となり、まさに「夢は逃げない。自分が夢から逃げるだけ」だと心から感じました。夢は逃げ去りません。自分の「夢」を大切に、興味があることに情熱を持って取り組むことに期待しています。頑張ってください！



前列左から三番目が筆者



在校生に向けて

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

岸野 蒼大

在校生の皆さん、こんにちは。

さっそくですが、皆さん大学生活はいかがお過ごしでしょうか。バイトに遊び、サークルなど忙しい生活を送っている方もいると思います。私はこの4年間で他では経験できない生活を送れたと思います。本学は他

学比べて特異な点が多く、4年間過ごすだけでも大変なことが多いのではないかと思います。

その生活の中で自分が大切にしてきたことを一つ述べたいと思います。それは「一つ一つの経験を無駄にしない」ということです。なににおいても成功した経験と失敗した経験があると思います。失敗した経験からは改善点を得ることができ、成功した経験からは自分の強みや一種の答えのようなものを得ることができます。これらを毎回何かをした際に自らフィードバックすることで次につなげることができ、新しいことにも生かすことができます。

後悔しないよう大学生活を送ることも大事ですが、たまには自分を見直すことも必要だと思います。様々なことに挑戦して自分の見聞を広げることもいいですし、一つのことに大学生活を費やすこともいいと思います。その中で自分の成長のために「一つ一つの経験を無駄にしない」よう過ごしていただければと思います。

在学生の皆さんの益々のご活躍を期待しております。



乗船実習時（筆者は右）

オープンマインド

海洋工学部 流通情報工学科4年

阿部 和真

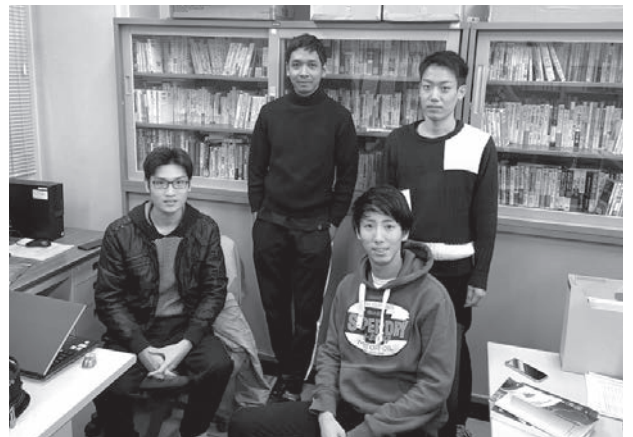
在学生の皆さん、こんにちは。1,2年生は試験の合否、3年生は進路が気になる時期でしょうか？

今回皆さんに伝えたいことは、オープンマインドについてです。オープンマインドとは、自分の考えに固執するのではなく、自分なりの考えを軸にしつつ、他所の意見も取り入れようと努める心のことを言います。

私は、大学生活で、講義、部活動、学園祭実行委員会、留学、研究室、アルバイト等、様々な経験をしてきました。これらの経験の中で、オープンマインドについ

て強く意識するきっかけとなったのは留学でした。私はアメリカに大学3年生の頃、約一年間留学していました。様々な経験や価値観を持つ人がいる中で生活は私にとって初めてのことでばかりで、自分の知る世界の狭さに気付かされました。そこで、自分の視野を広げるために、講義の時間だけでなく、学校の後や、休日にも積極的に外へ出て、様々なバックグラウンドを持つ友人達と一緒に過ごす時間を増やしました。そのおかげで、様々な考えを受け入れつつも、自分の意見を発信することができるようになったと感じます。

そのため、在学生には時間がある今、まずは様々な人と関わって自分の視野を広げてみて欲しいです。形は何でもいいので、部活、バイト、研究室、飲み会など色々な場面に顔を出して、話をしてみたら楽しいと思います。皆さんが残りの大学生活を有意義に過ごせるよう少しでも参考にいただければ幸いです。



研究室のメンバーと（筆者は前列右側）

充実した学生生活を

海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻2年

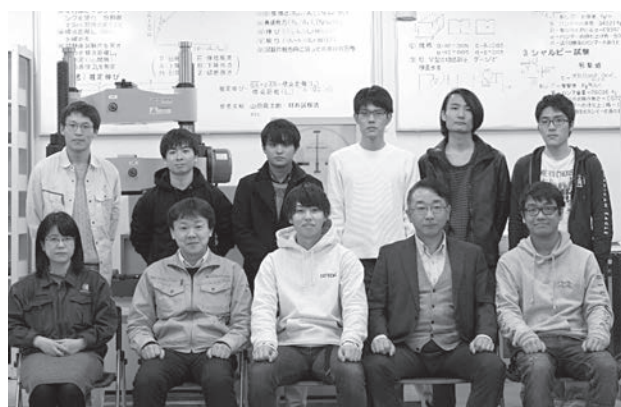
豊田 健一郎

私は、在学生の皆さんに対して、様々な人と関わって積極的に行動し、何か興味関心を抱くことに取り組んで欲しいと思います。私は、コミュニケーションを取って充実した学生生活を過ごすことが出来ました。

本学では、座学に加えて、乗船実習やライトレースロボット実習など、様々な実験・実習を学ぶことができます。特にその中でも、乗船実習では他大学の学生や機関士の方々と共に船を運航する過程を通じて、船舶機器に関する知識の習得のみならず、コミュニケーション能力を培うことができました。これらの能力を基盤に、研究活動においては、先生方を始め、先輩や後輩、共同研

研究の担当者とコミュニケーションを取りながら、課題解決に向けて取り組むことができました。例えば、私の研究室では、少数精鋭であることから、先生方に多くの時間を割いて頂いたことで、学生と先生方とのコミュニケーションがより深まりました。この結果より、先生方から頂いた意見を参考に、自身の考えを整理し、研究を進めることができました。さらに、研究室では、夏と冬の合宿があり、公私ともに親睦を深め、研究だけでなく楽しい思い出も沢山あります。

在学生の皆さんも様々な人と関わって、積極的に何か物事に取り組んで頂けると幸いです。



研究室のメンバーと（筆者は前列中央）

Try your best and make your dreams come true

海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻3年

Niu Liqiong (牛 丽琼)

Dear schoolmates, I am Niu Liqiong, the D3 student of Applied Marine Bioscience, Graduate school, Shinagawa campus, TUMSAT. And it is my great honor to write some messages for you. Thanks to the Japan-China-Korea programs and Prof. Okazaki, who gave me the chance to study here around four years ago.

I found that our university provides us with an excellent academic environment in which to develop and exercise the critical thinking and problem-solving ability. In addition, the university offers many interesting classes, workshop, joint seminar and extracurricular activities, such as collaboration with the manufacturer, go to industrial exhibitions and attend the international conference or joint symposium. I recommend you try your best to study and attend various

activities and internship.

In addition, it is important to become a responsible person to study hard, consider in deep, also achieving dare to take the responsibility for the society. Sometimes if we want to understand the purpose or the value of our research better, please try to discuss with your supervisor frequently, collect the related background information and try to link the related problems from both academic and industrial field. Previously, we investigated on the quality and commercial value improvement of the new type sasa-kamaboko (one kind of surimi-based products), which was under the background of huge economic loss on the Miyagi kamaboko manufactures caused by large earthquake in 2011. Finally, it was found that our new technology may contribute to improve the manufacture processing of high-quality, frozen product.

Last but not least, success may need to persist for one more minute. As a student, especially in our experiment, we may meet a trouble or failure, but when we get some achievements after trying hard, our confidence would be become strong. Also, there seems to be a lighthouse in the distance that is our eternal pursuit. Some things maybe disappear soon, such as our youth, however, some things that could be existed and continued, that is our own dreams, although we do not know whether they could be successful or not. Since we already select to study in our university, just try our best and accomplish our dreams!



I attended the National Kamaboko Competition as a staff and became familiar with Japanese traditional products

卒業特集

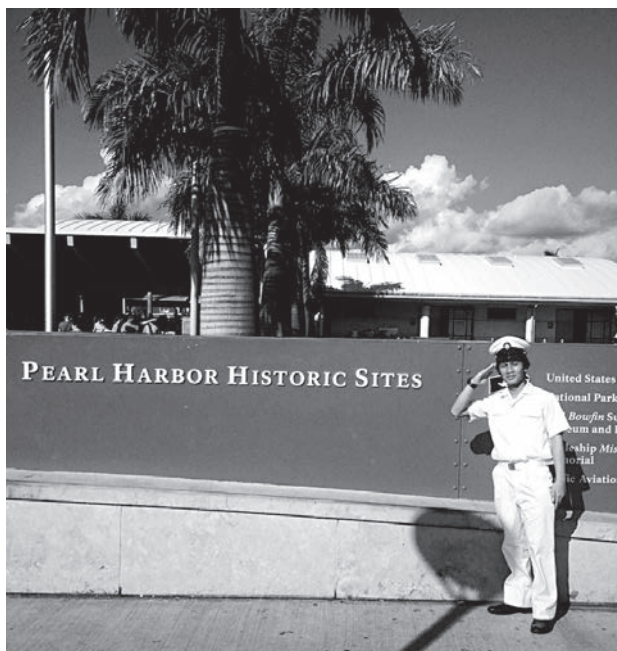
卒業、修了する 先輩留学生から在學生へ

過去の私に会えるなら

海洋工学部 海事STEM工学科4年
カイル イザティ ビン カマルンタム

過去に学ばない者は、過ちを繰り返す
— ジョージ・サンタヤーナ —

2020年は、私が日本にいる最後の年です。日本から去り行く日が近づくにつれて、日本に到着した初年の回想をしない日はありません。その郷愁に溢れる日々の思い出を振り返る度に、「日本に来たばかりの私に会えるとしたら、何を伝えれば良いのか」という問いかけが、心の奥から湧いてきます。



いまから東京海洋大学に出発する新入生へ
「ボン・ポワイヤージュ」

「満足したら終わりだ」ということを最初に伝えたいです。以前、私は日本語学校で習得した日本語で、十分だろうと思っていました。残念ながら、授業内容の理解、課題の取り組み等のためには、それまでに習得した日本語は極一部にすぎませんでした。幸いなことに、自習に加えて、本学の日本語授業を受講することによって、片っ端から言語障壁を崩すことができ、かつて絶対達成できないと思った日本語能力の獲得ができました。

「いままでの二倍の努力をせよ」ということを次に伝えたいです。正直なところ、授業を全く理解できず、周りのペースに追いつけない等の学習障害にあって、挫折することを何回も経験しました。その苦しいこと極まりない学生生活が続いて、底無しの穴に落ちる直前に、現実に目覚めて、迷宮の出口を探り始めました。授業の予習と復習を重視して、積極的に課題に取り組むことによって、学習障害を一つ一つ乗り越えることができました。

最後に、「自分のことを大切にして、他人と仲良くする限り、きっと大丈夫」ということを伝えたいです。他にも伝えたいことが山ほどありますが、そろそろ現実に戻らなければなりません。ともかく、上記の三点を日本に来たばかりの私と在学生の皆さんの脳裏に焼き付けたいです。それでは、「御機嫌よう！」。



前向きな力を信じて前に進もう

海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻2年

朴 昭桓 (パク・ソジョウン)

私は2016年10月から半年間、東京海洋大学で交換留学生として勉強しました。その後、韓国で大学を卒業し、東京海洋大学に戻ってきて大学院生として勉強しています。私が交換留学生として半年間、そして、大学院生として2年間という留学生生活を頑張らせた力は「何でも前向きに挑戦しよう!」でした。

私は一人で日本語を勉強しました。それで、自分の日本語能力に全く自信がなく、試してもみないのに「日本人と会話が通じないだろう」と一人落ち込んでいました。こうしたネガティブな考えばかりだった私は、留学を目指しながら少しずつ考え方を始めました。

まず、「一人で勉強してこれくらいならそれでもすこいだよ」と、前向きに考え方を始めました。そして、

交換留学生として日本に来て、下手な日本語にもかかわらず、一生懸命に日本語で話しました。そうすると、日本語の実力が目立って向上しました。これをきっかけに、私は前向きな考え方の力の大切さを感じました。

その時から私は困難に直面しても怖くありません。乗り越える力を知ったからです。大学院に進学し、研究のための日本漁村での聞き取り調査、そして就活活動まで、本当に大変でしたが、前向きに挑戦し、成果を勝ち取ることができました。

皆さんの留学生活においても、きっと様々な困難があるかと思います。皆さんはどうやって乗り越えていますか。もし、迷っていたら、このような考え方はどうでしょうか。いくら大変でも、前向きにチャレンジして下さい。大切な留学生活が輝くように頑張らしましょう。



退職の年を迎えて

退職なさる

教職員の方々より一言

退職の年を迎えて



海洋生物資源学部門 教授

今田千秋

私が東京海洋大学の前身である東京水産大学に入学したのは昭和51年度でした。ちょうど旧課程から新課程に変わり、入試科目が大幅に削減されたことから、前代未聞の競争倍率（13倍）でした。なんとか合格通知を頂戴することができたのですが、1,2年生のうちは将来の進路が具体的に思い描けず、目標が定まらなかった為、それといった行動も起こせずに学生生活を過ごしたような気がします。

転機は、3年生の夏休みに参加した1か月の乗船実習でした。この実習を通して、将来船に乗って海洋の研究をしていきたいと強く思うようになりました。多感な時期に、同世代と寝食を共にし、学び経験する乗船実習は、これまでの自分を振り返ったり、そのうえで今後自分が何をしたいのかと考える、貴重なきっかけを与えてくれたと思います。

乗船実習がきっかけで本学大学院修士課程に進学し、植物プランクトンを使って海洋の汚染の度合を調べるような研究をさせてもらいました。そのことが縁で、修士課程修了後は東京大学海洋研究所の博士課程に進学し、海からの有用微生物の探索研究を行い、学位取得後は同研究所での1年間のポスドクを経て、財団法人微生物化学研究所に就職し、約11年間勤務しました。その後、応用微生物学講座が新設されたときに助教授

で母校に戻り、海洋からの有用微生物分離と諸産業への応用研究を展開しました。海洋微生物採集のために乗船する機会もたくさんありました。折に触れてつくづくこの道に進んでよかったな、楽しかったなと実感しました。

学生の皆さまにお伝えしたいのは、本学は他大学に比べて実験、実習が大変多いことです。座学で学んだことはすぐに忘れてしまいますが、体験したことはいつまでも覚えています。どうか積極的に実験、実習に参加していろいろな経験をしてください。また、初心を忘れずに勉学にもいそいそしてほしいと思います。そして、行き詰ったり、先が見えない不安なときは、仲間とともに経験し学ぶことで自分を発見できるチャンスがあるという事を思い出してください。

私は、あと2年間再雇用で勤務させていただきますが、これまでのように楽しく教育研究を続けられればうれしく思います。最後に本学の益々の発展を祈念し、私のあいさつに代えさせていただきます。

退職の年を迎えて



食品生産科学部門 教授

木村 凡

1994年、37歳の時に下関の農林水産省水産大学校から転勤してきました。横浜育ちで、中学高校は東京に通っ

ていましたが、18歳以降20年間東京を離れていました。転勤当初は、工事中の品川駅構内の薄暗い通路で足早に私を追い抜いていく人々のせわしなさに驚かされました。

あれから25年。大学としての最も大きな出来事は、国立大学の法人化と2大学統合による東京海洋大学への誕生であったと思います。法人化がプラスだったのか否か、果たして2大学の統合により機能的な運営が促進されたいのか否かについては意見の分かれるところですが、少なくとも東京海洋大学というネーミングは成功だったように思えます。

私個人としては、2012年からの海洋科学部長時代の4年間で自分の所属する学科以外の沢山の教員の皆様方とお知り合いになれたことが心の財産になっております。海洋大学には色々な個性を持った人々が働いており、それぞれが大学を支えているとういことを実感させられました。

さてこれで一区切りとしての定年をむかえます。今更ながらですが、若い学生に接することができ、自分の姿勢や努力によっては彼らになにがしかの影響を与えることができるというような大学教育の現場で、果たして自分自身は十分な自覚をもって努力してきたのだろうかという反省が頭をもたげてきています。せめて、残りの期間を悔いのないように仕事をさせていただこうと思っています。

退職の年を迎えて

海洋政策文化学部門 教授

川下 新次郎

在職時の思い出としては、やはり教職教育に関わるものが多くようです。

入学時には「大丈夫かな」と思われた学生が、4年次の教育実習では冗談を交えながら授業をし、さらに教職に就き今度は指導教員として実習生を迎えコメントする姿にも接することができ、感慨深いものがありました。また、実習生の授業見学には、本人の所属研究室の先生を推測する楽しみもありました。大学での研究指導は徒弟訓練的な要素があり、少なからず「親方」の影響を受けているように思われます。教育・研究環境から様々なものを吸収しながら成長していく過程に同行することができたのは幸せなことでした。

また、教育実習見回りや調査などで水産・海洋高校

を訪問した際に、本学卒の老若男女、多くの先生方から歓迎して頂いたのも、「母校」を感じられる楽しいひと時でした。

今後も、多様性を活かした「ワンチーム」としてさらに発展されることをお祈りいたします。

ありがとうございました。

退職の年を迎えて

海事システム工学部門 准教授

藤坂 貴彦



平成14年4月に海洋工学部の前身である東京商船大学に採用となり、このたび定年退職を迎えることになりました。

着任当初は、学内で行き交う方々の「おはようございます」「こんにちは」の声を聴き、学生、教職員の皆様の礼儀正しさに驚きを感じました。また、当初は先生と呼ばれることに違和感を覚えたことも懐かしく思い出されます。学内の先生方、礼儀正しく活発な学生の皆さんに囲まれて教育、研究に携わることができ幸せでした。特に、航海実習部門の先生方には公私ともに親しくして頂くとともに、卒業研究の一環として開発したシステムを実際にご利用いただき、実用面での評価・改良にご協力頂きましたことにお礼申し上げます。

在職中お世話になった先生方、事務職員の方々に感謝申し上げるとともに、皆様のご多幸と東京海洋大学の一層のご発展をお祈り申し上げます。

退職の年を迎えて

海洋環境エネルギー学部門 教授

稲本 守



ちょうど10年前のことになりますが、勤続20年を顕彰していただいた際に、当時の松山学長が「20年から退職まではアツという間ですよ」とご挨拶されたことを思い出します。当時は、まだ10年あるからと思っていたのですが、最後は本当にアツという間でした。

先日、自身の履歴を改めて眺める機会がありましたが、この30年を振り返りますと、「激変」という言葉

がよく当てはまるように感じました。大学名が変わったことはもちろんですが、その間、私の所属も「教養科」「共通講座」「海洋政策文化学科」、そして現在の「海洋資源エネルギー学科」へと転じました。研究室も3度移動し、間もなく1号館への4度目の引っ越しが迫っています。担当する専門分野も、当初は語学や教養科目が中心でしたが、次第に国際関係や海洋政策へと変わってきました。

こうした経験は、授業でいろんな話題を提供したり、視野を広く持ち、バランスのとれた考察をしたりすることには役に立ちました。又、多彩なテーマと取り組む大勢の学生さんたちに囲まれて、刺激にあふれた日々を送ることができました。でも立場が変わる毎に教育・研究内容を調整していかなければならず、特定のテーマについて腰を落ち着けて勉強できなかつたことが、今となっては悔やまれます。まだ2年間、再雇用教員として大学に残りますが、その間を有効に活用して、少しでも掘り下げた研究を残すことが出来ればと思う今日この頃です。



退職の年を迎えて



海洋資源エネルギー学部門 教授

酒井久治

1981年、第二次オイルショックの影響も収まらない中、幸運にも本学練習船の三等機関士として採用され、社会人をスタートさせました。4年後の神鷹丸Ⅲ世の建造で

は、手動操作から自動化の進んだ近代化船へのターニングポイントに建造委員として接することができました。その後、海洋生産学科漁業工学講座の助手に配置換えの後は、陸上の教員として現在に至っています。その間、研究面では機関システムの省エネルギーを中心に、教育面では機関工学、漁業機械学、更に留学生教育に従事しました。その中でも、40代後半にJSPS政府間交流研究者事業（マグロはえ縄漁業における海鳥混獲防止装置の開発）で1年間、ホバートにあるオーストラリア南極局に席をおいたことは、データ取得のための漁船への乗船や、水槽実験のお手伝いではありましたが、研究者、社会人、人間として有意義な時間を過ごすことができました。大きな研究成果は得られませんでした。国際特許が取得できたのは幸運でした。この体験から、学生諸君にとってグローバル教育での海外派遣に積極的に参加していただければ、新たな扉が開くのではないかと思います。

最後になりましたが、定年を迎える今、就職してから現在まであーっという間でした。しかし、その時々には思考、勉学等に十分な時間がありましたので、今の時間を無駄にせず有意義に過ごしていただければと思います。本当に長い間、ありがとうございました。



新任教員の紹介



海洋環境科学部門 准教授

豊福高志

2019年10月1日付けで海洋資源環境学部に着任しました豊福高志です。新学部立ち上げ当初より、特任准教授として東京海洋大学に在籍しておりましたが、この度はクロスポイント教員としてメンバーに加わりました。兼務先は横須賀に本部を置く海洋研究開発機構(JAMSTEC)です。私の専門は地球科学と生物学が融合した生命地球科学という分野です。ラン藻が発生させた遊離酸素によって地球表層環境が大きく改変された例に代表されるように、生物と地球環境は互いに影響を与え合うことで、現在の環境が形作られてきました。海洋における生物の役割を理解するためには、そのふるまいをつぶさに観察することがとても大切です。野外での観察はもちろん重要ですが、興味のある環境を実験室に再現することで、対象となる生物の行動を長時間追跡したり、顕微鏡を駆使してミクロや、ナノや、オングストロームのスケールで観察することが可能になります。これは、生物のふるまいを深く知る上でとても有力な方法になります。私は特に有孔虫という海に住む小さな生き物に着目し、研究を進めています。多くの有孔虫は、巻き貝にも似た砂粒サイズの炭酸カルシウムでできた殻を自分で作ります。海水に含まれる二酸化炭素とカルシウムイオンの化学反応で炭酸カルシウムを作るのです。近年、センシング技術やイメージング手法が次々と開発され、私たちのみえる世界はどんどん広がってきています。これまで見えなかったものを見えるようにすることを通じて、生物のふるまいを一つ一つ紐解いていくことはとても楽しいです。海洋大が得意とする野外調査と飼育実験を組み合わせ、学生諸君とともに面白い研究を展開していきたい所存です。よろしくおねがいします。



海洋環境科学部門 准教授

村瀬弘人

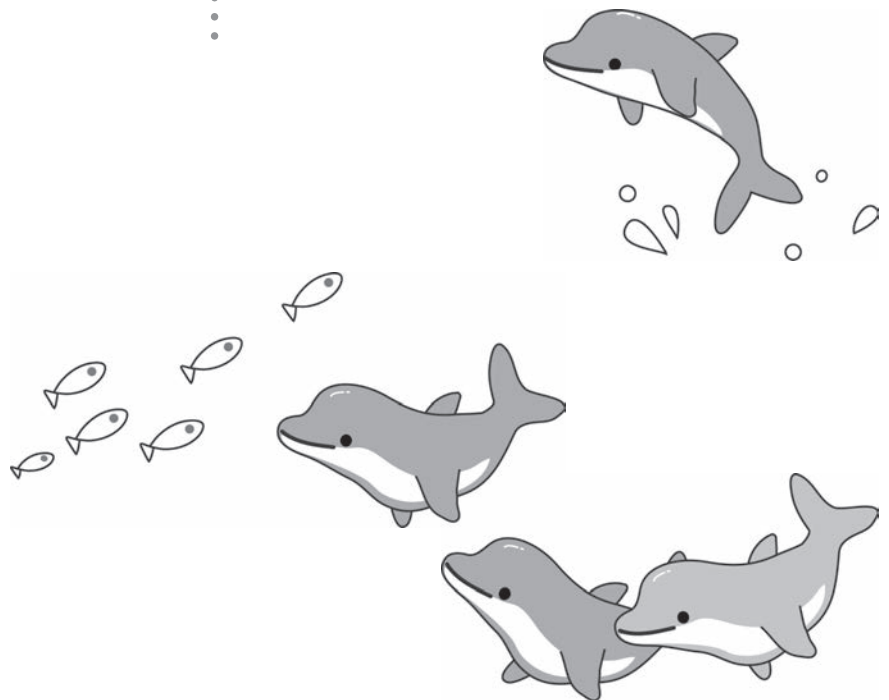
2019年5月、海洋環境科学部門に准教授として着任した村瀬弘人です。前任の加藤秀弘先生(現名誉教授)が立ち上げた鯨類学研究室で助教の中村玄先生と一緒に鯨類を対象とした多様な研究に取り組んでいます。本学に着任するまでは一般財団法人日本鯨類研究所および国立研究開発法人水産研究・教育機構国際水産資源研究所の研究員として主に北太平洋と南極海に分布する鯨類の生態や鯨類を取り巻く海洋生態系に関する研究を行っていました。

人間が見ることができる鯨類の生態はごく一部で、大半の時間を水中で過ごすこの動物の謎を明らかにするのは容易なことではありません。このため、様々な観測機器を駆使して収集したデータを最先端の手法で解析する必要があります。たとえば、私の過去の研究では、ピンガー(超音波を発信する数グラム程度の観測機器)を装着して鯨類の潜水行動を連続して観察すると同時に、計量魚群探知機(超音波によって海中の魚類といった生物の分布量や分布水深を調べる観測機器)により鯨類餌生物の分布水深のデータを調べ、これらの関係を調べたことがあります。計量魚群探知機だけでは海中の餌の種類はわからないこともあるので、トロール網で餌生物の採集も行いました。このように鯨類のことを調べるには、海のこと、またそれを調べる手法に関する幅広い知識が必要ですし、またいろいろな専門分野の研究者との協力が欠かせません。

海に関する様々な専門知識を学んでいる皆さんと鯨類そして海洋生態系に関する最先端の研究に取り組むことを楽しみにしています。

2019年5月から海洋資源エネルギー学部門の助教に着任しました三島由夏です。専門は海洋生物音響で、特に小型のハクジラ類（イルカ）を対象としています。イルカはエコロケーション（反響定位）能力を備えており、音を出してその反射音に含まれる特徴をもとに、物体の大きさや厚み、材質の違いが分かります。つまり、音で「見る」ことができます。また、さまざまな音を使ってコミュニケーションをとっています。私はこれまで、「コンタクトコール」や「コヒージョンコール」などと呼ばれる、群れの結束を維持するために鳴き交わす種特異的な音に焦点を当てて研究してきました。最近では、仔イルカの音声発達について研究しています。

今後はこれらの研究に加えて、海洋資源探査や洋上風力発電による海中騒音の問題にも少しずつ取り組んでいきたいと考えています。海中騒音は、鳴音のマスクング、行動変化、聴覚障害など海洋生物へさまざまな影響を与えると懸念されています。今まで培った知識や経験を活かして生物よりの立場から環境アセスメントに携わっていきたいと思っております。海洋生物が好きな方や生物の音に興味がある方は、ぜひ研究室へいらしてください。学生のみなさんの考えや興味のあることを大切に、一緒に研究していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



大学院紹介

海洋資源環境学専攻 / 食機能保全科学専攻 / 応用生命科学専攻

海洋資源環境学専攻 — 博士前期課程 —

海洋科学技術研究科 海洋資源環境学専攻主任/教授
鈴木 秀和

海洋資源環境学専攻は、海洋環境を保全しつつ、資源を持続的に利用するため、海洋の成り立ちと保全、海洋生物と環境との関わり、海洋・海底資源及びエネルギーの開発と利用に係わる諸課題について、理学的及び工学的な視点からその先端的な学理と応用技術に関する教育・研究を行っています。本専攻には、海洋生物学、水圏環境化学、環境システム科学、そして環境テクノロジー学の4つの専攻分野があります。それぞれを説明していきましょう。

まずは、海洋生物学分野。海洋に生育・生息する微小生物や植物から魚類・無脊椎動物、そして大型哺乳類までを対象とした形態、分類、分布、生活史、生理生態学特性について、また被食・捕食、共生などの生物間の相互関係、個体群や生態系の動態と環境との関係について、教育・研究を行っています。水圏環境化学や環境システム学などの専攻分野と連携して気候変動や人為的環境破壊が生態系に及ぼす影響を究明し、

生態系の保全や生物多様性の維持のための方策を提示します。

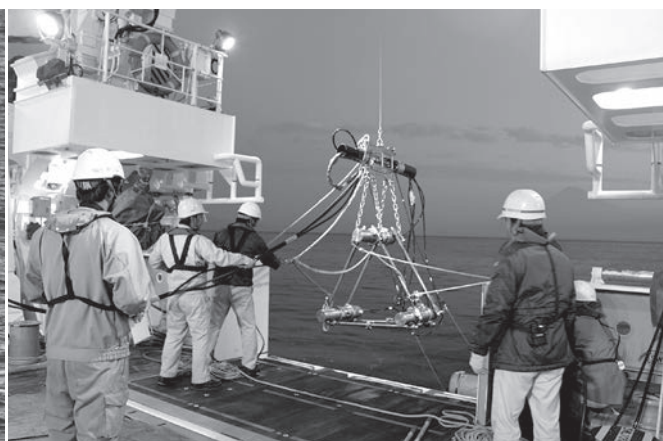
次に、水圏環境化学分野。海洋（水圏環境）の物質について、存在形態と動態、大気や海底との交換・移動、物質循環と生物活動との相互作用、水圏生物の生態関連物質の構造・作用と有効利用、水圏環境の浄化に関わる技術開発、化学センサーを用いた環境モニタリング、水圏微生物の探索・利用、海底における石油・天然ガスや鉱物資源などの成因論に基づいた探査・利用技術の創出など、海洋の保全と有効利用に必要な知識と技術について教育・研究を行っています。

環境システム科学分野では、地球規模からミクロな規模までの様々な時空間スケールで発生する海洋物理現象を観測・実験・解析を通して正しく把握し、海洋循環モデルや生態系モデルを構築するとともに、その根幹を成す物理・生物環境変動機構を明らかにすることを目的とします。また、先端技術を応用した海洋計測システムや、そこから得られる多様な情報を処理する技術など、海洋環境動態の解明と予測に不可欠な事項に関する教育・研究を行っています。

最後に、環境テクノロジー学分野について。この分野では、海洋とその資源を、環境を保全しつつ持続的に有効利用するための先端的科学技術について教育・



史上最大の動物 シロナガスクジラ スピッツベルゲン沖にて (撮影: 中村 玄)



神鷹丸でのエアガン投入 (撮影: 鶴我佳代子研究室)

研究を行っています。特に、海洋生態系の保全・利用、海洋における生産性向上のための工学的技術に焦点を当てています。具体的には、沿岸生態系の保全と利用、海洋生物の資源量・生態・環境の計測、環境保全型の海洋機械システムの創生、生産性・経済性向上を目的とした情報技術開発、人間の海上労働や船の安全に関わる諸問題の解明に取り組んでいます。

本専攻は、平成29年4月の新学部（海洋資源環境学部）設置にあわせて海洋環境保全学専攻の「名称変更」を行い、一部の専攻分野を他専攻と入れ替えて、ほぼ新学部の構成員と重なる形で発足しました。しかし、各専攻分野で異なる学科を担当する教員が混在する形になっており、ややわかりにくい機構になっています。その為、発足趣旨に照らして、学部と連続性を保った6年間の教育を実現させるべく、学部の海洋環境科学科と海洋資源エネルギー学科に合わせる形の2分野、すなわち海洋環境科学分野と海洋資源エネルギー分野に再編する予定です（令和3年度から）。

食機能保全科学専攻 — 博士前期課程 —



海洋科学技術研究科
食機能保全科学専攻主任／教授
後藤直宏

海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻は、海洋生命科学部食品生産科学科の上に位置する博士前期課程の専攻です。食品生産科学科の上には、このほかにも食品流通安全管理学専攻があるため、食品生産科学科から大学院へ進む際、全ての学生が食機能保全科学専攻へ進むとは限りません。食機能保全科学専攻は食品保全機能学分野と食品品質設計学分野の2つの専門分野から構成されています。さらにそのほかに、サラダサイエンス寄附講座も食機能保全科学専攻に属しています。

我が国の食品産業が今後とも経済的な優位を保ちつつ世界で生き残るためには、食品産業自体が高度な技術力を駆使できる産業へと脱皮することが不可欠と我々食機能保全科学専攻の教員は考えています。そこで我々は、水産食品を中心とする各種食品の製造・貯蔵・流通・消費などに関する諸原理と先端技術に関して教育研究を行っています。特に、人の健康増進および恒常性の維持を視野において、原料から消費に至るまでの食品の安全性・健全性の確保と向上および食品の機能性向

上に関する事。さらに、それらを支える化学的・微生物学的・物理学的・工学的な視点から、また、学際的な技術の開発などについてそのデザイン能力と遂行能力の育成に注力しています。このようなことより食機能保全科学専攻では、原料から消費に至る過程における食品の安全性の確保と向上、食品の栄養・保健機能の解明および食品品質の最適制御に関して興味のある学生を求めています。食機能保全科学専攻で実際に行われている研究内容としては、「磁場勾配NMRを用いた食品ゲルに関する研究」、「長期熟成魚肉刺身の美味しさに関する研究」、「食品微生物の迅速検出・同定法の開発」、「有用微生物の探索と食品への利用」、「アレルギー性試験法の開発」、「魚貝類およびアニサキスアレルギーに関する研究」、「海洋生物の産生する生理活性物質に関する研究」、「食品の栄養機能性および作用機序に関する研究」、「水産未利用資源および廃棄物の新規機能性食品素材への応用」、「加熱調理における熱・物質移動および反応の解析」、「食品製造加工機器の洗浄と衛生管理に関する研究」、「貯蔵ならびに流通過程における冷凍食品中の氷結晶の再結晶化に関する研究」、「海洋環境に配慮した水産加工法の開発」、「食品冷凍およびそれに関する食品の物理化学的特性」、「水産バイオマスの有効利用法の研究」、「海洋環境に配慮した水産加工法の開発」などがあり、食品に関して多岐にわたる研究が実施されていることがわかると思います。

食機能保全科学専攻を修了した学生は、さらに自らの研究を極めるために博士後期課程へ進学する学生と、社会へ巣立っていく学生に分かれます。食機能保全科学専攻は上記のような理念で学生の育成を行っているため、その多くは食品関連企業に就職しています。これから我々は、社会のニーズをとらえた教育研究を積極的に行い、社会の最先端で活躍できる人材を育てていきたいと考えています。

応用生命科学専攻 — 博士後期課程 —



海洋科学技術研究科
応用生命科学専攻主任／教授
萩原知明

2019年のノーベル化学賞は、リチウムイオン二次電池の開発に貢献した日本の吉野彰氏が、ジョン・グッドイナフ氏およびスタンリー・ウィッティンガム氏と、共同受賞しました。近年、

日本人もしくは日本出身の研究者のノーベル賞受賞が相次ぎ、「研究者」という職業に対する関心も高まっているのではないのでしょうか？今この文章を読んでいる学生の皆さんの中にも、「研究者」になりたいと考えている人がいることでしょうか。では、研究者になるためにはどうすればよいのでしょうか？学術研究機関において研究者として活躍するためには、「博士」の学位を取得することが必要になります。「博士」は教育機関が与える学位の中で最高位のものであり、研究活動を職業として行う「プロ」の研究者として活躍するために必要な「免許証」とでもいえる存在です。民間企業においても、昇進の条件として博士の学位の取得を求めるところ、社員の自己啓発のために学位の取得をサポートするところなどもあるようです。また、最近では、博士の学位取得を通じて得た専門知識やスキルを、学術研究機関以外の様々な分野における問題解決に役立てていこうとする動きも盛んになりつつあります（まだ日本では十分ではありませんが）。これは、現在の我々人類の抱えている諸問題の解決には、高度な知識が必要であり、その解決の担い手として、博士の学位を持った人材が期待されていることを意味しているものと思います。東京海洋大学では、「博士」の学位を取得するための専攻として、大学院海洋技術研究科に「応用生命科学専攻」と「応用環境システム学専攻」の2専攻が設置されています。ここでは、私の所属する応用生命科学専攻を中心に紹介します。

応用生命科学専攻の教育・研究上の目的は、「海洋生物の生理・生態・機能を総合的に解明し、海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用に応用することを目的とする。具体的には海洋生物の保全、資源管理、増養殖、食品としての利用、有用物質の単離や生産を目指した先端の学理と技術開発に関する教育研究を行うこと」となっています。要約すると、「海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用」を目指して、基礎から応用に至る様々な視点から教育研究を行うことです。応用生命科学専攻の学生は、他専攻の学生と同様に、「博士」の学位の取得を目指して研鑽を積むこととなります。1つの研究テーマにじっくり取り組む過程を通じて、諸問題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得のみならず、自立した研究者として、自分で問題を発見して、それを解決できる能力を身につけるべく努力します。具体的な目標の1つとして、どんなに小さいものでもよいので、新たな知見を得て、学位取得のための博士論文を書き、かつ得られた知見を学術論文の形で公表して世界に貢献することが挙げられます。日常な活動としては、博士論文を執筆するための実験・調査とその結果を交えた指導教員との議論ならびに自分自身による

思考の繰り返しになります。指導教員との議論とを通じて、専門的な知識のみならず、問題の見つけ方、論理的思考方法、プレゼンテーション能力を身に付けていきます。また、積極的に研究集会（国際学会を含む）等に参加して、成果の発信、最新の知見の収集、自らの研究の立ち位置の確認を行うとともに、他の研究者との交流といった活動も行います。情報が瞬時に世界を駆け巡る現代においては、国際的な研究者間交流も必須です。

博士の学位を取得することは楽な道ではありません。学術論文ならびに博士論文のいずれも、新規性のある内容を、学生実験のレポートとは比べ物にならない緻密な論理性と一貫性をもって書き上げなければなりません。しかしながら、その楽でない道の歩みを通じて体験し学ぶことが、自立した研究者としての能力を涵養する上で極めて重要な意味を持ちます。また、博士の学位取得を通じて課題が解決でき、さらに新たな価値観の創造や社会貢献に寄与できた時の達成感は何事にも代えがたいものです。海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用の重要性は今後ますます増していく一方で、一筋縄では解決できない問題も山積みです。こうした問題の解決に熱意を持って挑戦したいという学生の皆さんを、私達は歓迎します。また、歓迎するだけでなく、学位取得を目指す皆さんに対する様々なサポートも用意しています。わからない事、不安なことがあったら遠慮なく教員に尋ねてください。

なお、アラバマ大学のMatt Might教授(<http://matt.might.net/>)が、「博士」の学位取得までの道のりをユーモアのあるイラストで説明しています。URLとQRコードを載せておきますので、興味のある方はチェックしてみてください。

「The illustrated guide to a Ph.D.」

<http://matt.might.net/articles/phd-school-in-pictures/>



「The animated guide to a Ph.D.」

(YouTubeバージョン)

<https://www.youtube.com/watch?v=We760YM5-iM>





グローバル人材育成プログラム

第13期海外探検隊ノルウェー隊に参加して

海洋生命科学部 食品生産科学科2年

小澤 柚香

私は、9月にノルウェーで、2つのサーモン養殖会社にて研修を行いました。ノルウェーの気候、地形を活かし、環境持続性、Fish welfareを考慮したシステム、日本とは異なる従業員の働き方を実際に目で見ました。また、水しぶきがかかるほど間近での見学、現場の作業を手伝う、という贅沢な経験をしました。それぞれの会社の共通点、相違点を比較することができ、大変面白かったです。働いている方々から、養殖業に携わる者としての誇りを感じ、自分も将来このように働きたいと思いました。

海外探検隊の大きな特徴として、社会人と密な交流ができることが挙げられます。普段関わる機会がない方々から、お話、考え方を聞くことができました。その人の志や信念を伺うことのできる貴重な機会でした。この交流から、「特別な行動をした=特別な人」ではなく、普通の行動であっても自分で深く考え、意志を持って行動をしなければならぬと感じました。楽しいだけのノルウェー探検隊、ではいけないと再認識することによって、今、ここでしか得られないものを吸収しようと決心し、その後の交流における心構えとしました。

海外探検隊は、現状の自分を認識し、今後に対する危機感、目標を持つことのできる刺激的なプログラムです。プログラム中は、頑張って背伸びをしている感覚ですが、プログラムを通じて、背伸びが日常の一部となりました。日本でも背伸びの感覚を忘れずに生活していきたいです。海外探検隊は、多くの方々の協力によって成り立っています。このような機会を与えていただき、ありがとうございます。



左側1人目が筆者

海外探検隊での体験

海洋生命科学部 食品生産科学科2年

渡邊 美結

私は、学部2年の夏休みを利用して海外探検隊というプログラムに13期生として参加し、約1ヶ月間タイに滞在しました。タイでは、タイユニオン(主に水産食品を扱うタイの食品企業)とプラパ大学で各々2週間の研修を行いました。

まず、プラパ大学はタイの中心部から離れた自然豊かな場所にあります。そのため、自然を利用したフィールドワークが研修の多くを占めました。宝石採掘や、海に行き海洋生物の生息密度の測定、現地のムスリム家庭でのホームステイなど他にも大変貴重な体験を沢山させていただきました。

次に、タイユニオンについてです。研修の内容としては、サーモンを中心とした工場ラインでの研修や、製品の品質を保つためにされている工夫、マーケティング戦略を学ぶ、さらに消費者に安全な商品を届けるための研究室での研修など食品の加工から流通まで全ての過程を学ぶことができました。

今回の研修で最も印象に残っていることは、サーモン工場の光景です。そこでは、日本に輸出する寿司用のサーモンを加工しており、普段から食べているものがどのように作られているのかを学ぶことができ、とても嬉しかったです。そこでは、ミャンマーから出稼ぎに来た多くの従業員が加工過程ごとに分かれて手作業で丁寧に作業していました。また、工場加工された一切れのサーモンは、彼らが利用する社員食堂の食の値段よりも高いという事実にも驚きました。この光景を見ることができただけでも、今回の研修に参加する価値があったと思いました。海外探検隊を通じて、多くの人たちとの出会い、沢山の学びがあり、とても密度の濃く素晴らしい1ヶ月でした。



中央が筆者



海外留学体験記

海外インターンシップに参加して

海洋工学部 流通情報工学科3年

山下 将平

私は、オギハラタイランドカンパニー社長森田浩二さんの協力の下、タイで8泊9日の海外インターンシップに参加しました。インターンシップではタイにおける自動車生産の素材輸入から完成車までの川上から川下までの物流を複数の企業を通して実際に工場・倉庫を見学し説明を受けながら学びました。工場見学では、トヨタ生産方式という徹底的な無駄排除による原価低減を基本思想とする生産方式を学び、その中でもトヨタ生産方式の2本柱の一つであるジャストインタイムを実現するための手段である後工程引き取り（かんばん方式）という必要な情報が記載された紙きれをツールとして活用した生産方法を目に見て理解することが出来ました。従来の工程で材料や必要な部品があればあるだけ生産する前工程から後工程の流れではなく、かんばんを用いてお客様を起点とした後工程から前工程への流れで無駄をなくす仕組みであるかんばん方式は、私が所属している流通情報工学科でロジスティクスの効率化を考える際などにも応用できる考え方だと感じ、非常に為になるシステムを学ぶことが出来たと感じております。

また実習時間外の自由時間にはバンコクの観光などをし、タイの慣習や文化などを知り、短い期間で楽しい時間を過ごすことが出来ました。このインターンシップは海洋会の方々の協力などでとても費用を抑えてもらい、尚且つ実習の内容もとても有意義なものでありました。是非、インターンシップに参加して自分の学びを深めてみることをお勧めします。



タイオギハラカンパニーにおいて

海外インターンシップに参加して

海洋工学部 流通情報工学科3年

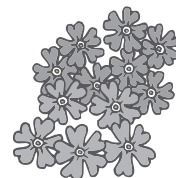
吉田 奏

4年間、これが長いと感じるかあっという間だと感じるかはその人の行動次第です。大学1年生のときは必修科目が多く、単位を取ることに必死でした。しかし次第に専門科目が増え、科目選択の自由が与えられていること、自分が学びたいことを学べる環境にいることに気づきました。この考えから、以前よりも講義に対して自発的に取り組むことができました。その中で、この恵まれた環境を生かし、悔いのない大学生活を過ごしたいという思いから、大学のグローバル・リーダーシップ・イニシアティブプログラムに応募しました。そこで損保会社の上海支社にて二週間、「中国におけるコールドチェーン」をテーマに、現状把握と課題・リスク対策について研究し、まとめました。一社員として扱っていただき、やりがいを感じると同時に、2週間という短い期間で、納得できるものを作らなければならないという責任感を強く感じました。今回のインターンシップでは、実際にお客様の前で損害保険の一商品として発表する機会も設けていただきました。いかに相手に興味をもってもらえるか、という点で研究発表とは違う難しさがありましたが、今まで吸収したロジスティクスの知識を応用し、外へと発信することができた貴重な体験でした。この3年間、私は限られた時間の中でたくさんのことに挑戦してきました。ぜひ、自分の納得できる大学生活を送ってください。



インターンでお世話になった陳さんとミーティング中

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

『拓海』の再訪

- 2008年3月 海洋科学部海洋政策文化学科卒業
2013年3月 東京大学大学院農学生命科学研究科
生圏システム学専攻修了
2013年4月 日本学術振興会特別研究員PD
(神奈川県立生命の星・地球博物館)
2016年4月 白梅学園短期大学保育科

宮崎 佑介

入学した年の『拓海』vol. 2に「私の二つの夢」と題した拙文が掲載されました。そこには、「一つは魚の研究者になることであり、もう一つはライター、ジャーナリスト、TVの出演などを通す自然環境に対する啓蒙活動家になること」という志が記されています。

所属学科の授業は勿論のこと、他大学・他学科開講科目も積極的に履修しました。また、「水産生物研究会」や「WEB魚図鑑」等における課外活動は、自己研鑽の場として重要でした。二つの夢の実現に必要な知識と経験を得る場として、東京海洋大学を大いに活用したと思います。

大学と大学院では魚の調査研究に打ち込み、3年間の自由気ままなポスドクを経て、現在は保育者養成校で講師をしています。自然・環境の関連科目とゼミを担当しつつ、魚の調査研究も継続できています。一昨年に『はじめての魚類学』を上梓し、昨年には日本魚類学会の自然保護委員・若手の会・庶務幹事の仕事を引き受け、「魚の研究者」になれたようです。

他方、学部時代からの課外活動を契機として、2009年に最初のテレビ出演の機会に恵まれました。さらに学位取得後、雑誌の連載、テレビ番組の解説や監修な

どのマスメディア関連の仕事は徐々に増加しています。保育者養成に携わる魚の専門家というのは珍しいらしく、そのお陰か今年は絵本の出版社とも仕事が決まっています。入学時に掲げていた「マスメディアを通じた生物多様性保全の普及啓発」も叶いつつあるようです。

振り返って感じるのは、運が強かったと同時に、戦略も当たったということです。大学院に進学する頃、院試の突破とポスドク以降を生き残るための戦略を考え、いずれも最低限の目標に届くよう努めました。また、着実な仕事は機会を呼びました。偶然や運に人生は左右されたものの、誠実な姿勢は目標に近づく仕事の増加に繋がったように思います。これらが初志貫徹できた秘訣かもしれません。しかし、国内外の諸問題を踏まえると、現状を持続し、さらに発展させる上では課題を感じています。自然好きのみなさんと課題解決のための手段を考え、より良い未来を描き築くことを今は夢見ています。



大学生生活を振り返って感じること

2019年3月 海洋工学部流通情報工学科卒業
2019年4月 京成電鉄株式会社 入社
2019年7月 京成電鉄株式会社 グループ戦略部

安島 由花

私は学生時代、物流会社での就職を目指しておりましたが、改めて「自分は社会に出て何をやりたいのか」と考えた結果、旅客を輸送する仕事にも関わってみたいと思うようになり、京成電鉄株式会社に入社をしました。京成電鉄は成田山への参拝客輸送を目的として設立した会社ですが、現在では寺社のみならず、日本の玄関口である成田空港の輸送にも寄与している会社です。

私が所属するグループ戦略部は京成グループ全体のあるべき方向性を定め、グループ各社の課題解決や計画推進に共同して取り組むことで、グループの事業成長をサポートする部署です。京成グループは現在約130社あり、各社の事業内容は運輸業、流通業、不動産業、レジャー・サービス業、建設業と多岐にわたっています。私が主に担当する業務は、各社の予算策定や業績分析のほか、当社およびグループ各社が出席をする会議の運営と、各社に与える影響が非常に大きい仕事となっています。

配属後、間もないうちからグループ各社の決算に影響する業務が多かったため、責任を果たせるか不安になることもありました。少しずつでも真摯に業務を完遂し、周囲の信頼を得たことが自信に繋がったと思っています。また鉄道事業だけでなく、鉄道事業を柱として沿線住民の生活に密接に関係する事業に携わりながらお客様に貢献できる事は鉄道会社に就職するこ

との魅力であり、やりがいであると感じています。

今は社会人として周りについていくのがやっとの日々ではありますが、海洋大での学生生活が今の自分に繋がっていると思う経験が大きく2つあります。1つは明確な目標を持った多くの友人に出会えたことです。海洋大の学生は、「航海士や機関士になる」等、将来の目標に向かってまっすぐな人が多く、当時漠然と将来像を描いていた自分にこうあるべきだと感じさせてくれました。

もう1つは興味・関心のあったテーマを研究できたことです。大学3年生の時、所属した研究室において教授からのアドバイスもいただきながら、研究テーマを当時将来進みたいと考えていた「物流」「鉄道」の2つに関連するものにさせていただきました。研究と並行しながら就職活動を行うことで、将来について深掘りして考えることができました。

私にとって特に有意義であった経験は上記の二つですが、海洋大は人それぞれ様々な成長できるきっかけがある場所だと思っています。是非他の大学に比べて人数が少ないという特徴をハンデだと思わず逆に活かして、周囲の先生方や仲間と密にコミュニケーションをとり、自分の将来の道を考えてみるのが良いと思います。



執務中



運輸部実習

実行委員長から



海鷹祭の実施報告

海鷹祭を終えて

第60回海鷹祭実行委員会委員長
海洋生命科学部 海洋政策文化学科3年

福田 衣 純

2019年11月、東京海洋大学品川キャンパス学園祭「海鷹祭」は、記念すべき第60回を迎え、大過なく盛況のうちに終わることができました。これもひとえに、皆様方のご支援ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。第60回海鷹祭の来場者数は、昨年度の約19,000人を大きく上回る約28,000人に達し、大学構内は大変賑やかなムードに包まれていました。予想をはるかに超えるたくさんの方々に足を運んでいただいて正直戸惑う部分もありましたが、その賑々しい様子は今年度のテーマ「華甲海宴」の意味する「還暦を祝う祭り」としてふさわしいものであったかと思えます。水産大学時代から続いてきた海鷹祭の還暦の祝いをたくさんの方々に盛り上げていただけたことを大変うれしく感じています。

海鷹祭は、海や魚に関する様々な企画が詰まった海洋大学ならではのユニークな学園祭です。今年度も昨年度同様、メインストリートにはシーフードを中心とした模擬店が立ち並び、ステージや屋内施設などでは学生たちが課外活動の成果を存分に展示・発表しました。大学構内のいたるところで、学生と学生、学生と来場者とが盛んに交流し、品川キャンパスは普段の穏やかな様子からは考えられないほどの活気に満ち溢れていました。中には、学生が小さな子供に海や海の生き物の魅力を伝えたり、学生と来場者が真剣に意見交換をしたりする場面も見られました。また、協働する学生たちの間には生き生きとした笑顔がありました。第60回海鷹祭は、様々な学科・学年の学生たちが活発に交流し、

更には、海や海の生き物そして東京海洋大学の魅力が多くの方に伝わる良い機会となりました。また、学生の課外活動の成果を広く一般に公開するとともに、あわせて大学の知的資源を地域社会に還元する大変有意義な場となったと感じました。

私たち海鷹祭実行委員は、このような大切な行事の開催に携われたことを非常に光栄に感じております。海鷹祭当日の三日間は、学生や来場者の楽しそうな表情を見て心の底から充実を覚えました。それは委員全員が地道に活動してきた一年間が報われた瞬間でした。一方で力不足を感じたやるせない部分も多々ありました。年々増加傾向にある来場者に対して委員の人員が不足しており、十分なサービスを提供できないことや、資金の問題で安全対策のための設備が追いつかないこと等です。これらは海鷹祭実行委員会が今後解決していかなければならない重要な課題です。

最後になりますが、ご協力頂いた企業様、大学関係者の皆様、各出店団体の皆様、またご来場いただきました多くの方々に重ねて御礼を申し上げます。委員一同、皆様への感謝の気持ちを忘れず、お力添えに応えられるよう日々精進してゆく所存です。至らない部分も多々あるかとは存じますが、第61回海鷹祭と海鷹祭実行委員会へ変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



学生の

課外活動報告

ボート部

海洋工学部 海洋電子機械工学科3年

主将 矢田 大河

ボート部は、品川・越中島両キャンパスの男子10名・女子4名で、埼玉県戸田ボート場にある本学戸田艇庫に合宿し練習しています。2018年度には女子棟も完成しました。練習は他大学同様、毎朝4時半から2時間の乗艇練習と、授業後戸田に電車移動した18時から1時間の艇庫での筋力強化練習等です。

主な大会は、4月末の五大学レガッタと9月の全日本大学選手権です。五大学レガッタは、東京工業大学・東京外国語大学・筑波大学（旧東京教育大学）、防衛大学校・東京海洋大学（旧東京商船大学）の5大学による伝統ある定期戦です。そして、チームの最大目標は、全国約70大学が参加する全日本大学選手権です。2019年度は、男子ダブルスカル（2人乗り艇：2000m競漕）で出場31クルー中、準優勝を果たすことができました。これも、指導スタッフ、チームメイト、多くのOBOGの先輩方のご支援の賜物と思っています。今後、男女とも部員数を増やし、8人で漕ぐエイト出場を視野に入れ、日々精進していきたいと思っています。



釣り研究同好会

海洋生命科学部 海洋生物資源学科3年

会長 田上 大志

私たち釣り研究同好会は、日々の釣りの他、釣り関係の団体のボランティアへの参加や釣りフェスティバル(旧フィッシングショー)へのブースの出展を行なっております。

内容は子供たちに釣りのことを教え、興味を持ってもらう内容が主で、釣りの技術を教えたり、ルアーに色を塗ってもらったりします。

この他にも、海鷹祭(学園祭)では大学のプールに養殖場から購入したニジマスを放し、それを餌で釣り上げるニジマス釣りを毎年行っています。例年400人ほどに楽しんでいただいております。こちらとしても毎年学ぶことが多く、有意義な出し物であると考えています。

もちろん日々の釣りも積極的に行なっております。大学付近を流れる運河でズキを狙ってルアーを投げる、横浜に行ってアジを狙う、また部員によってはトカラ列島や小笠原諸島、台湾やタイ、ブラジルなどの海外まで釣りに行く部員もいます。

このように、私たち釣り研究同好会は、日々の釣りはもちろん、日本の釣りの発展のためにも微力ながら貢献することを目標としています。



ニュース

&

トピックス

「令和元年度父母等懇談会」を開催しました

●越中島キャンパス

令和元年6月1日(土)に、越中島キャンパスにおいて、海洋工学部の父母等懇談会が開催されました。

始めに、東海理事・副学長（教育・国際担当）より、挨拶と本学の教育について説明があり、続いて、塚本海洋工学部長より、成績評点システム（GPA）、修学アドバイザー制度等、海洋工学部の教育内容、学生支援体制について説明がありました。続いて、3学科の各学科主任から、学科の特徴、進路、就職実績の説明を行いました。

ご参加いただいた皆様より、熱心に質問が寄せられ、有意義な父母懇談会となりました。



東海理事・副学長の説明

●品川キャンパス

令和元年11月4日（月・祝）に、品川キャンパスにおいて、父母等懇談会が白鷹館1F講義室で開催されました。

大学からは、東海理事・副学長（教育・国際担当）、佐藤海洋科学部・海洋生命科学部長、田中海洋資源環境学部長ほか学科主任等の教職員が出席し、大学の現

状や教育・学生支援等の最新情報について報告いたしました。

今年度は約180名の父母等のご来場があり、大学からの説明に熱心に耳を傾けておられました。また、質疑応答では数多くの質問が寄せられ、大変有意義な懇談会となりました。



東海理事・副学長の説明



佐藤学部長の説明を熱心に聞く来場者

「海の日」記念行事を開催しました

東京海洋大学では、海に親しみ・興味を持っていただくとともに、本学が行っている最先端の教育研究活動をわかりやすくご紹介するために、令和元年7月15日(月・祝)の「海の日」に越中島・品川の両キャンパスで記念行事を開催しました。例年であれば「海の日」は梅雨明け直後の暑い一日となるところですが、本年は朝から小雨が降る梅雨寒の中、両キャンパスで2,000人近くの来場者がありました。

越中島キャンパスでは、毎年大好評の電池推進船「らいちょうN」と調査・研究船「やよい」の体験航海、「水

中探査ロボット教習所」にてROVの体験操縦会、「水の実験・工作教室」にて水力船の作成、その他研究設備等の見学会などを行いました。

品川キャンパスでは、中学生・高校生を対象とした「青鷹丸」の体験航海や本学学生が体験談等を披露する「クジラについて、もっとよく知ってみよう!」、メタンハイドレートペレットの冷たさを体感できる「燃える氷、メタンハイドレートを触ってみよう!燃やしてみよう!」、海藻の押し葉標本でハガキやしおりを作る「海藻の押し葉標本をつくろう」など、さまざまなイベントが実施されました。



調査・研究船「やよい」体験航海



クジラについて、もっとよく知ってみよう

令和元年度9月期学生表彰授与式を行いました

令和元年9月26日(木)、品川キャンパスにおいて、「東京海洋大学学生表彰規則」に基づき、研究活動において特に顕著な業績を挙げたと認められる大学院学生6名

及び課外活動において優秀な成績をおさめた学部学生1名に対する表彰状及び記念品の授与を行いました。



竹内学長と受賞した学生(前列)

令和元年度9月期学位記・修了証書授与式を行いました

令和元年9月27日（金）、越中島キャンパス 越中島会館講堂にて、令和元年度9月期学位記・修了証書授与式が挙行されました。

今年度の9月期卒業生・修了生は、学部卒業生4名、乗船実習科修了生42名、博士前期課程修了生42名、博士後期課程修了生12名の計100名です。それぞれ授与された学位記を胸に、思い出の詰まった母校から旅立ちの日を迎えました。

竹内学長は式辞の中で、文部科学省中央教育審議会の報告書で言及された「知のプロフェッショナル」と

いう言葉を紹介し、卒業生・修了生に対し、本学の卒業・修了後も、自らのスキルを磨き上げていってほしいというメッセージを送りました。続けて、「グローバルな研究者、船舶職員あるいは高度専門技術者として世界へ漕ぎ出していくことを大いに期待している」という激励の言葉を述べました。

例年9月期は留学生の大学院修了生が多いため、国際色豊かな雰囲気の中、ご来賓、卒業生・修了生のご家族・ご友人、教職員など多くの方々が参列され、卒業生・修了生の門出を祝いました。



令和元年度10月期大学院入学式を行いました

令和元年10月4日（金）、品川キャンパス 楽水会館大会議室にて、令和元年度10月期入学式を挙りました。

本学では、大学院（海洋科学技術研究科）に10月期入学の制度があるため、この時期に、大学院生だけの入学式を開催しています。

10月期入学生は、その多くが留学生であるため、例年通り、司会や学長式辞など全て英語にて開催されました。

新入学生は、博士前期課程43名、博士後期課程25名の計68名が東京海洋大学生として、新たな一歩を踏み出しました。

竹内学長は、式辞の中で入学生一同に向けて、「海洋の未来を拓くために」、海洋のトップランナーとして新しい道を切り開き、産業を創設する意気込みを持って

欲しいと激励しました。

また、式の最後には合唱部による校歌斉唱が行われ、華やかな雰囲気の中で新入生の入学を祝いました。



海鷹丸が第59次航海（遠洋航海）、 第23次「海鷹丸」南極海観測航海に出港しました

令和元年11月25日（月）、本学練習船海鷹丸（うみたかまる）が、第59次航海（遠洋航海）に向け、豊海（とよみ）水産埠頭を出港しました。

出港式では、竹内学長の挨拶に続いて、文部科学省研究開発局海洋地球課福井課長、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所中村所長にご挨拶を賜り、その後、野田船長が出港の挨拶を行いました。出港直前には、本学OB・OGで構成された「楽水会雲鷹丸（うんようまる）合唱団」が、航海の無事を祈念して校歌や水産逍遥歌、スタンバイの歌を合唱しました。

今回の航海は、水産専攻科が実施する三級海技士免許（航海）の取得に向けた水産学教育の“総仕上げ”として行われるものであり、水産専攻科学生38名は、インド洋にてマグロ延縄（はえなわ）実習や海洋調査等を行った後、フリーマントル（オーストラリア）に入港。そこで、研究者が合流し、第23次「海鷹丸」南極海観測航海として出港し、令和2年3月2日に帰港する予定です。また、最初の寄港地であるベノア（インドネシア）やホバート（オーストラリア）では、現地の方々との交流を予定しています。



学長挨拶



出航

サークルリーダーシップ研修会を開催しました

令和元年12月3日（火）に品川キャンパスの白鷹館1階講義室で、サークルリーダーシップ研修会を開催し、学生や顧問教員など総勢113名が参加しました。この研修会は、各課外活動団体の学生代表者と顧問教員が、リーダーシップの在りかたについて講演やワークショップを通して理解を深めることを目的としたもので、今年は、元ラグビー日本代表・解説者の吉田義人氏を講師にお迎えして開催しました。庄司学生支援委員会委員長による挨拶の後、「学生として今取り組むべきこと ～2019年ラグビーW杯から学び2020年東京オリンピックに向けて～」をテーマに講演していただき、その後、「東京オリンピック成功に向けて - みんながやるべきこと、できることって何? -」という課題で「国際交流・多様性」、「人種差別・世界平和」、「コミュニ

ケーション・EQ」の3つのテーマでグループディスカッションを行い、その結果を発表しました。学生からは、「世界のトップレベルの方の生きた言葉を聞けて非常に参考になった」、「グループワーク形式でいろんな人の意見を聞いたのがよかった」、「ご自身の経験を通してリーダーシップに関するヒントをいただけて参考になった」、「グループワーク後の吉田さんの言葉に今回のメッセージが凝縮されていると感じた。自分の場合に置き換えて考えることができ、よい機会になった。」「自分は積極的に主将になったわけではなくどうすればよいか分からなかったが、自信を持つこと、決断をすることが今まで足りていなかったことだと気づいた」などの感想が寄せられ、リーダーシップについての理解を深める内容の濃い研修会となりました。



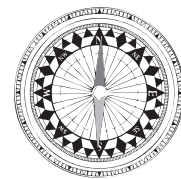
吉田講師による講義の様子



グループワークの様子

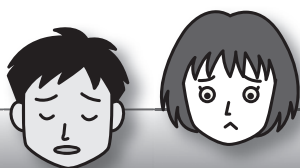
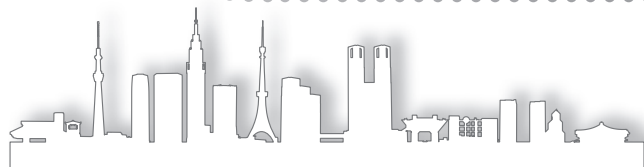


吉田講師と庄司学生支援委員会委員長・参加学生



学生相談室からの

お知らせ



学生相談室について

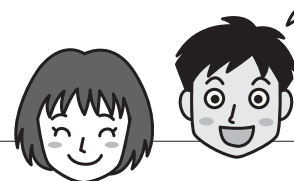
学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

- ・ てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次
- ・ への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。
- ・ 相談内容についての秘密は厳守されています。
- ・
- ・

品川キャンパス

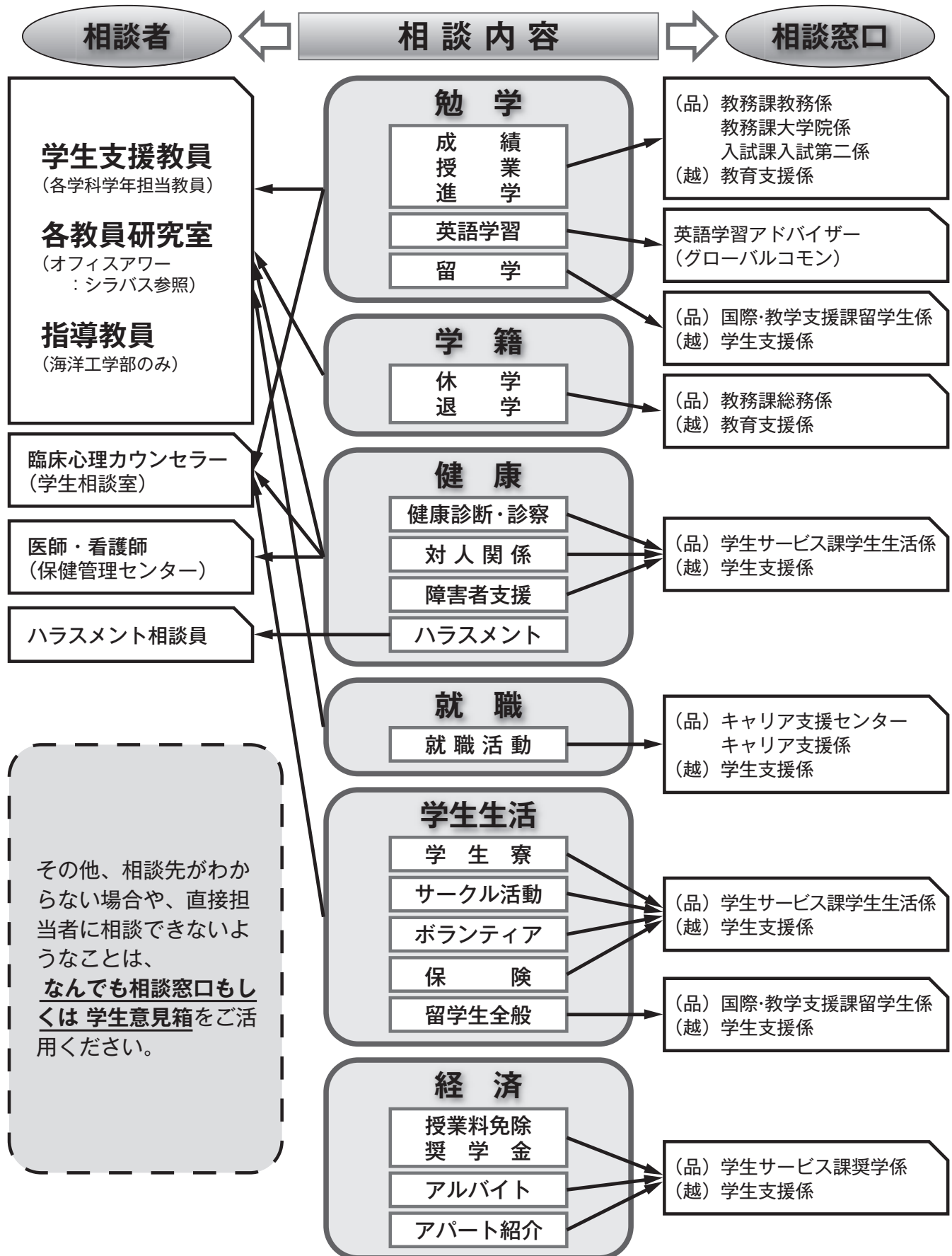


場 所	大学会館1階学生相談室
日 時	水曜日 12:30～16:30 木曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	染谷先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 高井先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館1階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

本学の学生相談体制について



お知らせ

就職支援体制について

キャリア支援センターでは学生への支援として開催している「就職ガイダンス」、「企業説明会」、「公務員試験対策講座」及び「各種就職関連テスト」の実施、留学生に特化した「進路ガイダンス」、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びエントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を更に充実させるとともに、学生の就職に対する意識の向上を促し、教学と学生支援の協働を緊密に行い進路支援体制の強化を図っています。

学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップへの参加を意識させることにより、様々な形での社会からのニーズに触れ、学生が自分のキャリアデザインに資する機会を設けています。学部で開講する「グローバ

ルキャリア入門」、「キャリア形成論」等のキャリア関連科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特徴に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。

また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教授によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます。

図書館からのお知らせ

東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内

— 眠っている本で母校を応援しませんか？ —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでも申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

■申込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バリューボックス（電話：0120-826-292）に連絡してください。宅配業者が受け取りに参ります（5冊以上なら送料はかかりません。1回の申込みで3箱まで）。

【注意】 以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌など

詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。
<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊（点）数が少ない場合は回収ボックスをご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館にご連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住 所
国立科学博物館(上野公園)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住 所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6



緊急時連絡システムについて

(さくら連絡網)

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）、LINE、アプリ**も登録できます。**必ず登録して下さい。**

3. 登録手順

(1) さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

(2) 連絡を受け取りたい方法を**【LINE】**、**【アプリ】**、**【メール】**から選びます。（※3種類とも登録できます。）

(3) **【LINE】**を選んだ場合

- ①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）
- ②認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

- ①さくら連絡網のアプリをインストールします。
- ②アプリを起動して、認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

- ①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。（※メール本文は変更しないでください。）
- ②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。
- ③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

(4) メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

4. メール受信時の注意

- ①緊急時連絡システムでは、メール、LINE、を受信者が開封したかどうかの確認できるシステムです。
また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。
受信した場合は、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答して下さい。
- ②登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信に「school.i.net」を追加登録して下さい。
- ③マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。
- ④配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加するとともに、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

- ⑤ログインID、パスコードは、各自で管理して下さい。（入学時に、学部生には大学メールアドレスに配信。大学院生、非正規生には紙で配付しています。）
- ⑥パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡下さい。
- ⑦緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5. 個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に則り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOUREGISTRATION)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to inform urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register multiple mail addresses (up to Four) or LINE or app of mobile terminals such as mobile phones, smart phones, and home PC in order to confirm the correspondence from university in emergency surely and promptly. Please be sure to register.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumouregistration.

QR code



URL

<http://390390.jp>

2. Choose a method by which you would like to receive from the university, “LINE” or “app” or “Email.”

*You can also register both.

3. When you choose **“LINE”**,

- ① register (add) from LINE's Add Friends button. (i.e.,start from “Talk” page).
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“app”**,

- ① Install Sakura Renrakumou app.
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“Email”**,

- ① the page moves to the registration mail sending screen, please send the mail.

*Please do not change the mail body.)

- ② receive an email for registration from Sakura Renrakumou.
- ③ access the URL and enter the ID and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When you receive it, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a registration email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to easily access your email and passcode settings.
- Manage your ID and passcode carefully, and make sure that you change your passcode after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your passcode, contact the responsible section using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

ネットワーク障害防止のための注意事項

重要!

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。



ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→金属製ケースのハブがオススメです。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→「WAN」「LAN」を間違WANえると障害が発生します!

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、
タコ足配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



注意

PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、7、8 及び Mac OS Xは、メーカーのサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。

現在利用可能なOSは、Windows10、Windows8.1、macOS(Catalina)です。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

Important!

Precautions for Preventing Network Failure

Network outages occur frequently on campus.
Check the wiring inside the research office.



Do not connect the cable in a loop (as in the picture.)

Connecting both ends of a cable to network equipment can cause serious obstacles. For example, communication packets without an exit increase within the network, making the entire floor or building unreachable. Remove unused cables from the equipment.

Do not use old hubs or broken LAN cables

An old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failure of the entire floor due to thermal runaway. Damaged wires and connector damage may also cause communication trouble. Check the years of use and state of damage and replace as necessary.

→ **A hub with a metal case is recommended.** It is stable, long-lasting, and provides excellent heat dissipation. For a detailed model number, contact the Inquiry Center given at the bottom of this page.

Set up and connect the router in the office correctly.

Misconfiguration of the DHCP function on the broadband router and wireless LAN router individually installed in the offices may lead to communication failure on the floor or the entire building. Check that the network cable is properly connected.

→ **If "WAN" and "LAN" are confused, network failure will result!**

Use of old OA taps, use exceeding the rated current, and use of power strips **may cause fire**. Beware.



40

Caution Optimize your PC with the latest updates

Information leakage due to viruses targeting OS vulnerabilities is reported worldwide. Make sure that the operating system and antivirus software you are using are kept up to date. Even on a private notebook PC, you can install the university-distributed antivirus software. Take advantage of it by all means. Manufacturer support has ended for Windows XP, Vista, 7, 8, and Mac OS X. Update to the latest OS promptly if using these OS. The currently available OS are Windows 10, Windows 8.1, macOS(Catalina).

Delete data when discarding a PC, etc.

To prevent information leakage from discarded personal computers, etc., use data destruction and erasure devices for recording media such as hard disks and SSDs. Please bring them to the following counter:

Information System Inquiry Center

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

To obtain University distribution software, contact: <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

学生関係窓口からのお知らせ

両キャンパスの学生関係の窓口対応時間は下記のとおりです。

窓 口	窓口対応時間
《品川キャンパス》 学務部事務室 (講義棟1階) キャリア支援センター (白鷹館1階) 《越中島キャンパス》 越中島地区事務室 (1号館1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 18:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
《品川キャンパス》 入 試 課 (本部管理棟1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦勞した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。



セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を与えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

(品 川) 学生サービス課学生生活係
 (越中島) 越中島地区事務室学生支援係



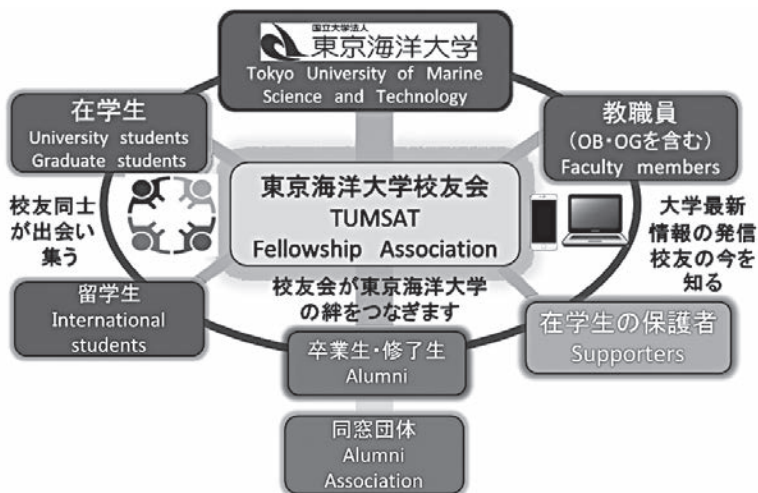
東京海洋大学校友会のご案内

Q1. 「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

本学は、2017年4月の新学部設立を機に国内における唯一の海洋系総合大学として体制を強化しました。今後、社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2. 「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在大学生、在大学生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。ホームカミングデーや練習船見学会など、「校友」限定イベントも企画し、「校友会ホームページ」や「校友会メルマガ」でお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。



Q3. 「校友会ホームページ」とは何ですか？私アカウントを貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなど様々な機能を備えた「校友」限定ホームページです。

「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。（登録及び会費は無料です。）



海洋大の「今」が分かるコンテンツを少しずつ充実させています。開発中の機能もありますが、ぜひ、実際に使ってみてください。



(校友会ホームページ) QRコード

【アカウント取得方法】

- 在大学生の方：大学メールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛にID・パスワードを送付済みです。不明な場合は、再送も可能ですので、お気軽に校友会事務局にお問合せください。
- 卒業生・保護者の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから、ぜひ申請をお願いいたします。（校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付します。）

★★★ご卒業を控えた方へ★★★

【重要】ご卒業後も引き続き利用いただけるようにするため、卒業前に「連絡用メールアドレス」の変更をお願いいたします。※初期設定の大学メールアドレスは、卒業後に使用できなくなります。（ログイン後の画面「プロフィール設定」>「プロフィールの編集」>「連絡用メールアドレス」）

本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。

楽水会：<http://rakusui.or.jp/>
海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局
電話番号：03-5463-0354
メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいなと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、下記まで知らせてください。

- 品川キャンパス：学生サービス課学生生活係
- 越中島キャンパス：越中島地区事務室学生支援係

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

